

「公共工事等における新技術活用システム」
申請マニュアル

令和4年3月

申請マニュアル

目次

1. はじめに	1
2. 新技術活用システムにおける申請	3
3. NETIS 登録申請	6
3.1 必要な申請書類及び提出先	6
3.2 申請書類の記入方法	7
3.2.1 申請の流れ	7
(1) 新規登録	7
(2) 変更	8
(3) 技術の改善	8
(4) 申請手続きの中止	9
(5) 同一技術の重複申請等の禁止	9
3.2.2 申請書類の記入方法	10
(1) 新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書 (様式 1)	10
(2) 技術概要説明資料 (様式 2)	12
(3) NETIS 掲載情報の更新・変更時申請書 (様式 I-15)	47
(4) NETIS 掲載情報の技術改善時申請書 (様式 I-16)	48
4. 試行の申請	49
4.1 必要な申請書類及び提出先	49
4.2 申請書類の記入方法	50
4.2.1 申請の流れ	50
(1) 試行申請型 (発注者指定の場合)	50
(2) 試行申請型 (請負契約締結後提案)	51
(3) 発注者指定型	51
(4) 発注者指定型 (選択肢提示型)	52
(5) 施工者選定型 (総合評価落札方式における技術提案の場合)	53
(6) 施工者選定型 (請負契約締結後提案の場合)	54
4.2.2 申請書類の記入方法	55
(1) 試行申請書 (様式 I-7)	55
(2) 試行希望調書 (様式 I-8)	56
5. NETIS 登録抹消の申請	58
5.1 必要な申請書類、提出先、及び申請書類の記入方法	58
巻末資料-1 申請・相談窓口一覧	59
巻末資料-2 関連様式集	63

1. はじめに

■ 「公共工事等における新技術活用システム」の概要

「公共工事等における新技術活用システム」とは、民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用していくためのシステムのことで、新技術情報提供システム（NETIS）の収集と共有化、直轄工事等での試行および活用導入の手続き、効果の検証・評価、さらなる改良と技術開発という一連の流れを体系化したものです。

■ NETIS 登録から事後評価までの流れ

①NETIS 登録

技術開発者から登録申請のあった新技術は、NETIS(申請情報)に掲載されます。

②事前審査

「試行申請型」、「フィールド提供型」及び「テーマ設定型（技術公募）」の場合又は発注事務所からの依頼があった場合に、「技術の成立性や直轄工事等における活用の妥当性」を産・学・官で構成される新技術活用評価会議にて審査します。その結果(事前審査結果)は、NETISに掲載されます。

③活用

直轄工事等において新技術を活用します。

④事後評価

新技術活用評価会議にて活用調査等の結果に基づき、当該技術の優位性、安定性、現場適用性技術特性を総合的に評価します。

⑤NETIS(評価情報)への登録

事後評価結果を NETIS(評価情報)へ掲載します。

■ 申請マニュアルの目的

本マニュアルでは、NETIS への各種登録方法や民間事業者による NETIS 登録技術の活用を行う際の申請方法について示します。

【用語の定義】

- * 新技術：技術の成立性（論理的な根拠があり、技術的な事項に係る性能、機能等が当該技術の目的や国が定める基準等を満足すること）が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されており、実用化している公共事業等に関する技術であって、当該技術の適用範囲において従来技術（公共工事等において標準的に使用され、標準積算の対象となる技術）に比べ活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術のことです。
- * 技術開発者：技術を開発した民間事業者又は技術行使権原を有する者のことです。なお、海外の民間事業者が開発した技術については、日本国内に営業所が所在する技術行使権原を有する者とします。
- * NETIS(申請情報)：登録申請を受理した技術について、登録書類に記載されている技術的事項及び経済性に係る情報等の技術開発者の申請情報を掲載しています。
- * NETIS(評価情報)：NETIS(評価情報)には、新技術活用評価会議による事前審査、事後評価結果に関する情報等を掲載します。
- * 試行申請型：NETIS 登録技術のうち NETIS 申請者から申請がなされた事後評価未実施技術を対象に、NETIS 申請者の申請に基づき、事後評価の結果を踏まえて活用を行う型のことです。
- * 施工者選定型：総合評価方式の入札契約手続きにおける技術提案に基づき施工者が NETIS 登録技術の活用行う型又は入札契約後における技術提案申請に基づき、施工者が NETIS 登録技術の活用を行う型のことです。

- * 申請書の提出及び受理に関する詳しい事柄については、最寄りの申請・相談窓口にお問合せ下さい。なお、お問合せの前には、必ず技術事務所（港湾技術は技術調査事務所）のインターネットホームページ（巻末 P59～P62）をご覧くださいませようお願いします。

■ NETIS 掲載期間等について

《NETIS 掲載期間は以下のとおりです》

①NETIS（申請情報）

当初に NETIS に登録した日の翌年度の 4 月 1 日から起算して 5 年を経過した日までとします。なお、NETIS（評価情報）に掲載されている技術については、上記にかかわらず NETIS（評価情報）への掲載期間中、NETIS（申請情報）における掲載も継続されます。

また、評価がされない場合は上記、5 年経過をもって掲載を終了します。

②NETIS（評価情報）

NETIS（評価情報）に掲載された日の翌年度の 4 月 1 日から起算して 5 年を経過した日までとします。

ただし、掲載期間中に当該技術について活用効果評価が実施され、NETIS（評価情報）に反映された場合の掲載期限は、NETIS（評価情報）に反映した日の翌年度の 4 月 1 日から起算して 5 年を経過した日までに変更されるものとします。なお、掲載期限が変更された場合においても、当該技術に対する掲載期限は、当初に NETIS に登録した日の翌年度の 4 月 1 日から起算して 10 年を経過した日までを限度とし、上記ただし書きにかかわらず、その日をもって掲載を終了します。

評価会議により、継続調査等が不要と判断された技術の掲載期限は上記によらず、当初に NETIS に登録した日の翌年度の 4 月 1 日から起算して 10 年を経過した日までとします。

2. 新技術活用システムにおける申請

「公共工事等における新技術活用システム」の申請は、下記のように分類されます。

(1) NETIS 登録申請

① 新規登録

NETIS に新規登録する場合の申請です。登録が完了すると NETIS（申請情報）の画面にて一般公開されます。

② 変更・更新

NETIS に登録済みの技術で、申請時に提出した資料内容（様式 1～2）に変更や追加がある場合の申請です。但し、技術の内容（基本的理念等）そのものについては変更を行うことは出来ません。また、変更・更新を行っても NETIS 掲載期間は延長されません。

③ 技術の改善

NETIS（評価情報）に掲載されている技術の安全性・耐久性等の技術的事項について、改善を行った場合の申請です。

(2) 活用の申請

① 施工者による活用申請

直轄工事等において、施工者側より新技術の活用を希望する場合の申請です。

② NETIS 申請者による活用申請

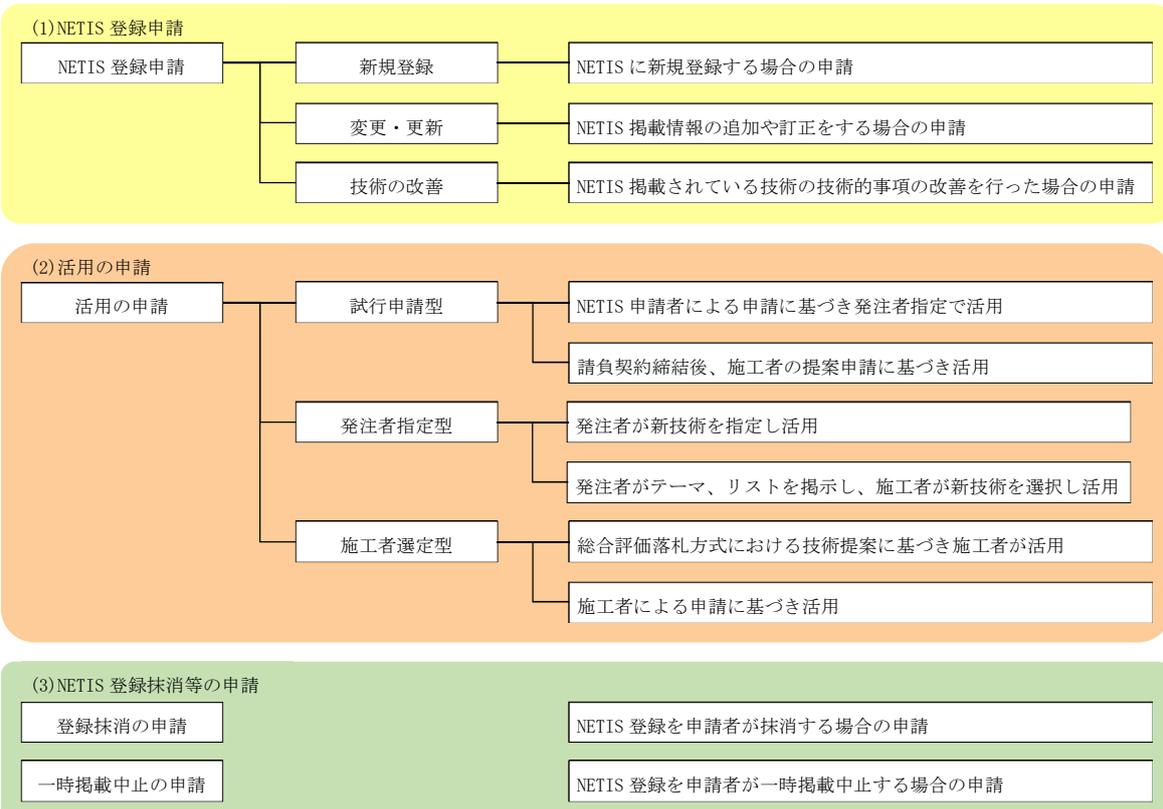
事後評価未実施技術を対象に、NETIS 申請者の申請に応じて直轄工事現場にて活用を行う場合（これを「試行申請型」という）の申請です。

(3) 事後評価の申請

NETIS 申請者が活用された新技術の事後評価を希望する場合の申請です。

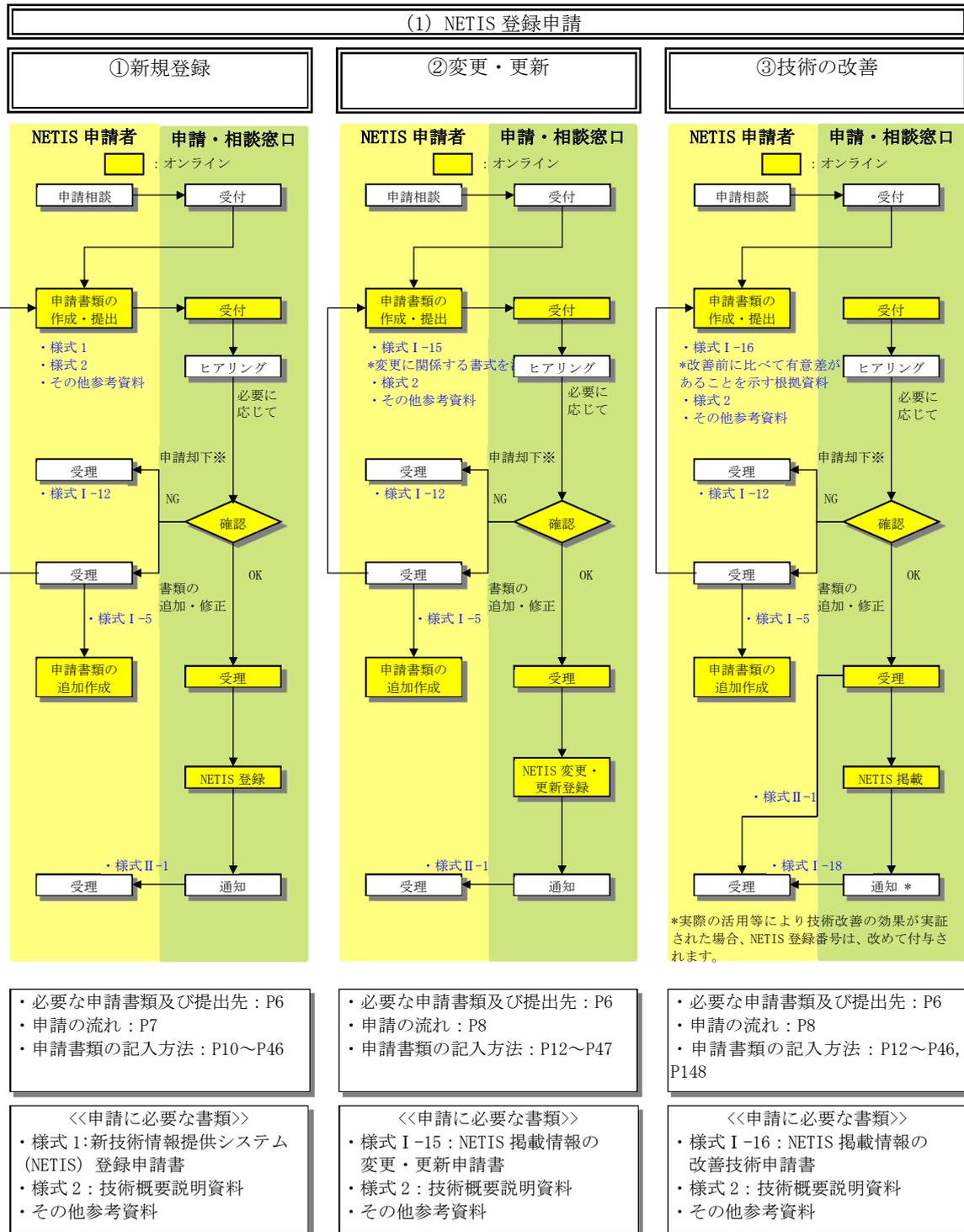
(4) NETIS 登録抹消の申請

既に NETIS に登録されている技術を抹消する場合の申請です。



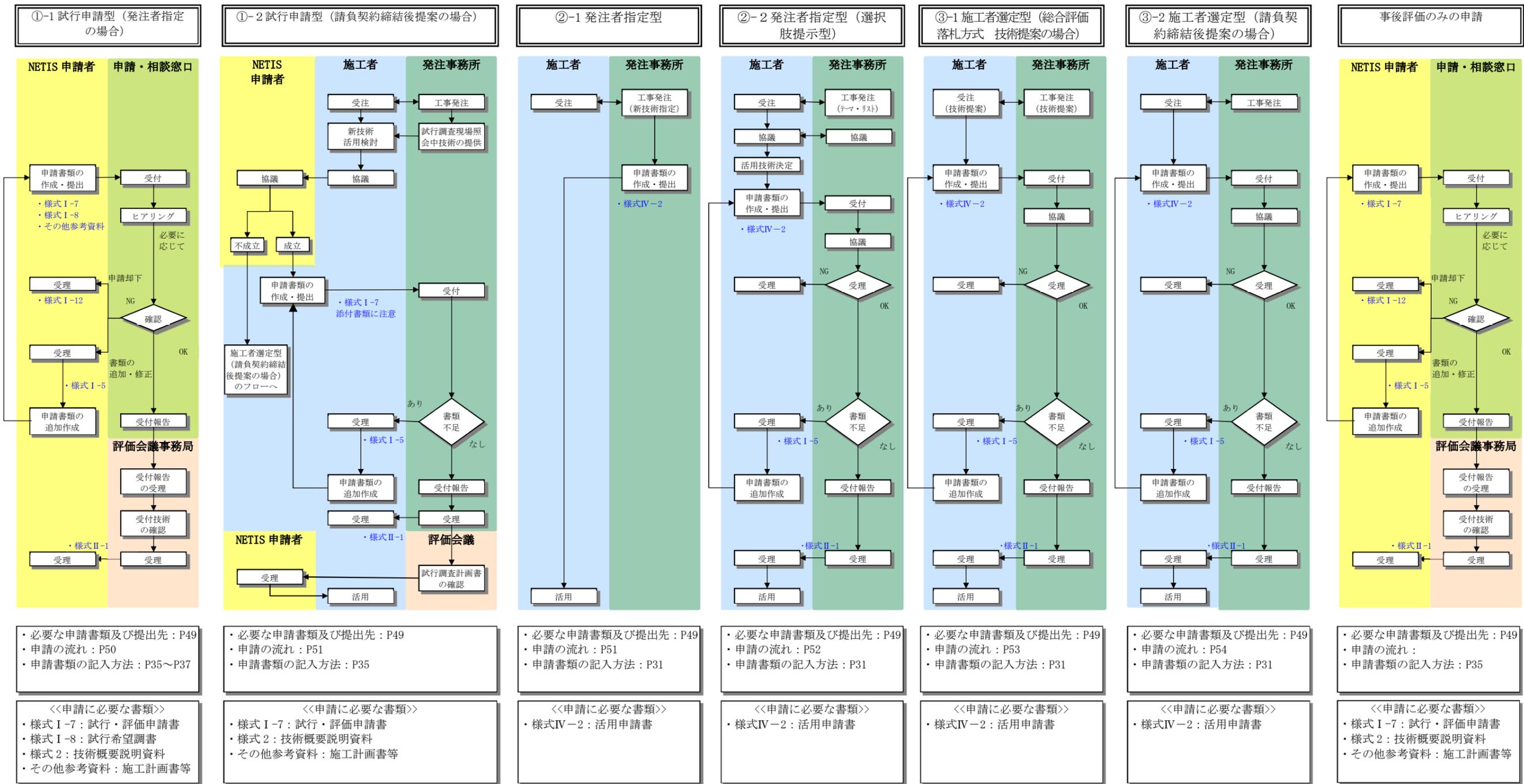
申請フロー

詳細はP14「オンライン新技術登録申請実施フロー」をご確認ください。

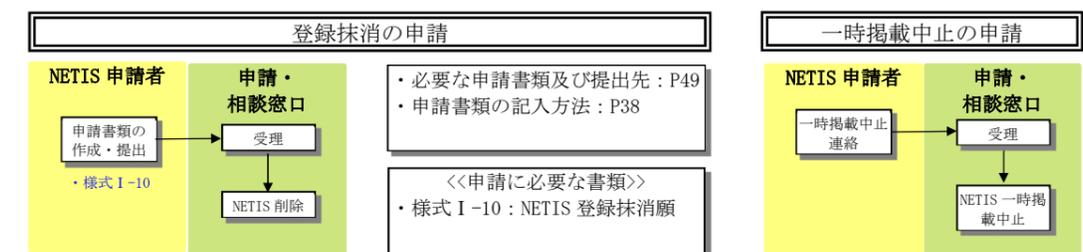


※申請された技術が既に登録済みの技術と内容が重複している場合、申請を却下することがあります。

(2) 活用の申請



(3) NETIS 登録抹消等の申請



3. NETIS 登録申請

3.1 必要な申請書類及び提出先

新技術を NETIS 登録（①新規、②変更・更新、③技術の改善）する場合に必要な申請書類及び申請先は、以下のとおりです。

	①新規登録	②変更・更新	③技術の改善
【様式 1】新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書	◎ 書面:1 部	—	—
【様式 I-15】NETIS 掲載情報の変更・更新申請書	—	◎ 書面:1 部	—
【様式 I-16】NETIS 掲載情報の改善技術申請書	—	—	◎ 書面:1 部
【様式 2】技術概要説明資料	◎	◎オンライン	◎オンライン
【その他参考資料】(様式自由)	オンライン	◎オンライン	◎オンライン

* ◎：必須 ○：必要に応じて —：不要

なお、①新規登録の申請先は、当該技術開発者の所在地にある申請・受付窓口です。

②変更・更新、③技術の改善についての提出先は、登録申請した申請・受付窓口です

◆新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書 (様式 1) <非公表>

NETIS 掲載情報の位置づけ、取扱い及び NETIS 登録技術に付随する責任や義務等を規定する実施規約へ同意した上で、NETIS 登録の申請を行う書類です。技術概要説明資料(様式 2)、その他参考資料(様式自由)を添え提出して下さい。

- ・目的：責任者名を明示し実施規約に同意した上で、新規登録の希望を申し出るため
- ・用途：責任者、問い合わせ先の確認資料

*登録申請者と技術開発者が異なる場合、もしくは、技術開発者が複数の場合には、他の技術開発者等の同意を得ているか証明できる書類を添付してください。(様式任意)

◆技術概要説明資料 (様式 2) <公表対象>

開発目的や活用効果等の技術の特徴とともに、活用等における留意点を記載して下さい。

- ・目的：技術の概要等を広く公開するため
- ・用途：NETIS に掲載する資料

◆その他参考資料 <非公表>

新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書 (様式 1)、技術概要説明資料 (様式 2) を補足するための資料として、従来技術の妥当性を示す根拠資料、自ら定めた任意の技術的事項の妥当性を示す根拠資料、施工実績データ、第三者機関による審査証明、学术论文、自社の試験データ等を申請時に添付してください。ただし、客観性および再現性のないものは認められません。

- ・目的：様式 2 を補足するため
- ・用途：事前審査、事後評価を行う場合の参考資料

◆NETIS 掲載情報の変更・更新申請書 (様式 I-15) <非公表>

NETIS 申請情報の追加や訂正等を行う場合に使用する書類です。技術概要説明資料 (様式 2)、その他参考資料 (様式自由) を添えて提出して下さい。

- ・目的：既登録技術の変更・更新の希望を申し出るため
- ・用途：変更・申請する技術や問い合わせ先の確認、NETIS への掲載 (様式 2：一般公開) を行う際の資料

◆NETIS 掲載情報の改善技術申請書 (様式 I-16) <非公表>

NETIS (評価情報) に記載されている技術の安全性・耐久性等の技術的事項について改善を行った場合に使用する書類です。改善後の技術が改善前と比べて有意差のあることを示す根拠資料を添えて提出して下さい。

- ・目的：既登録技術の改善を申し出るため
- ・用途：改善する技術や問い合わせ先の確認や、改善審査、NETIS への掲載 (様式 2：一般

公開) を行う際の資料

- * 上記の様式は、オンライン新技術登録申請 Web サイトからダウンロードが可能です。
- * ただし、「NETIS 掲載情報の改善技術申請書 (様式 I-16)」は、NETIS のインターネットホームページからのダウンロードは出来ませんので、申請・相談窓口を確認して下さい。
- * インターネットホームページアドレスは <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>

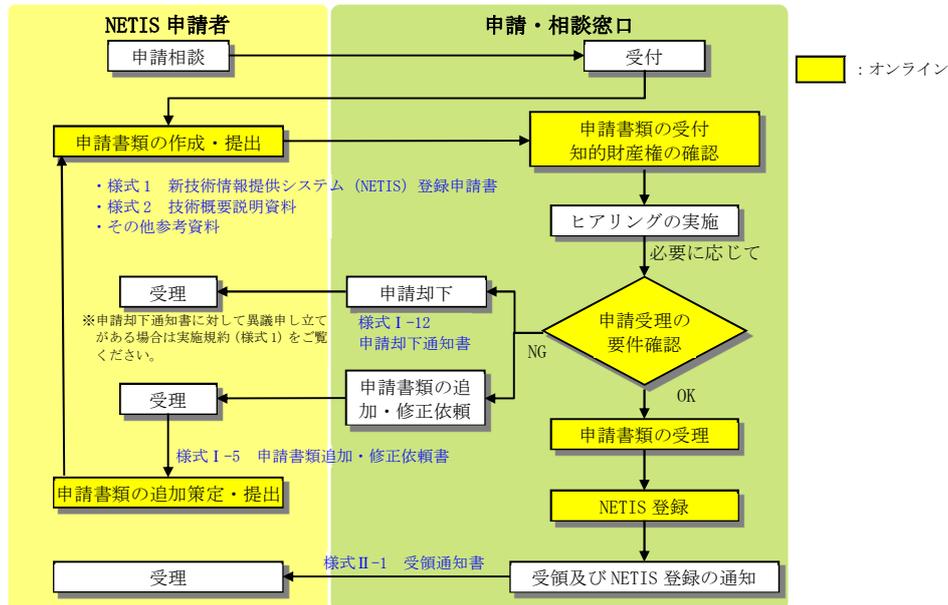
3.2 申請書類の記入方法

3.2.1 申請の流れ

(1) 新規登録

新技術を NETIS (申請情報) に新規登録する場合の申請の流れは、以下のとおりです。なお、申請が受理されるまでにヒアリング等を行う必要がありますので、申請手順の詳細については、P59～P62 の申請・相談窓口にお問い合わせ下さい。

「様式 1 新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書」、「様式 2 技術概要説明資料」の記入方法は、P10～P46 をご覧下さい。

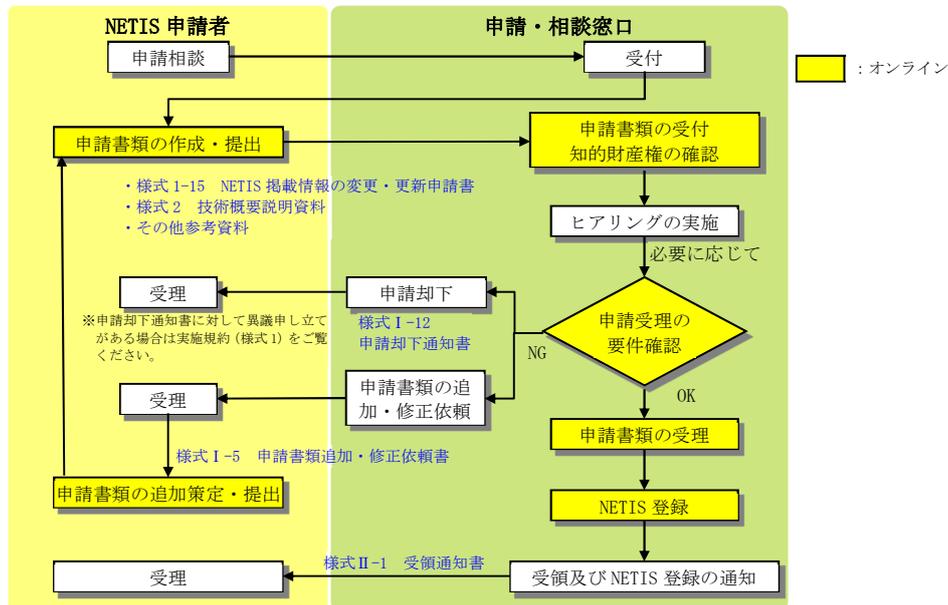


(2) 変更

NETIS 掲載情報の変更・更新の申請の流れは、以下のとおりです。

「様式 I - 15 NETIS 掲載情報の変更・更新申請書」の記入方法は P47 をご覧ください。

なお、変更・更新作業は登録申請した窓口で行ってください。

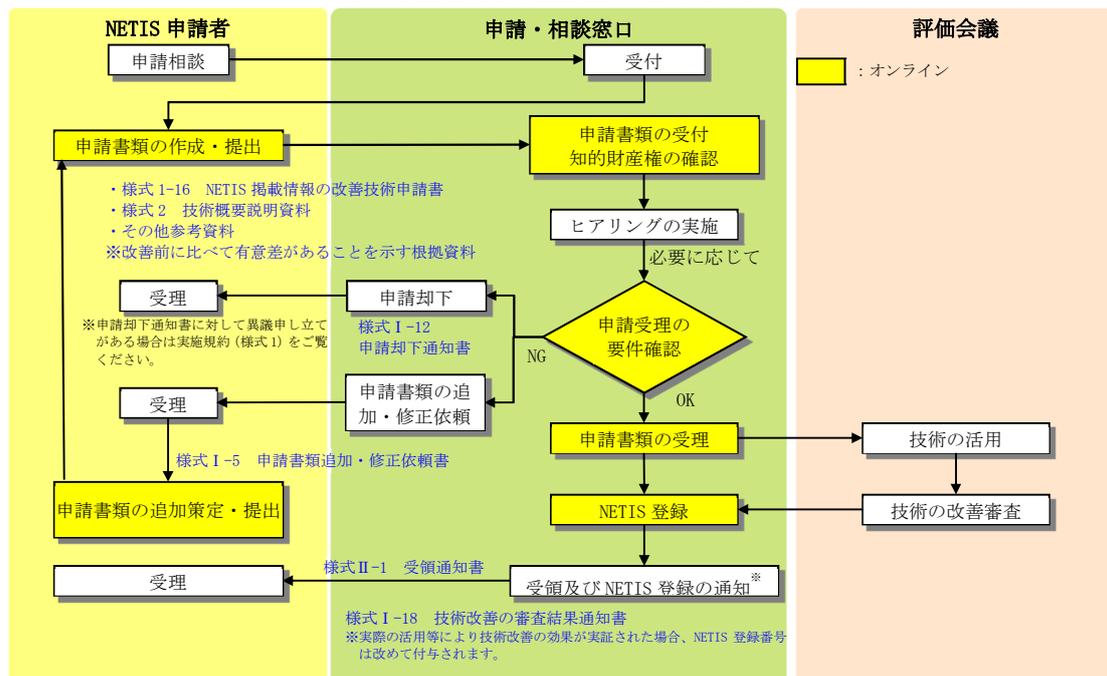


(3) 技術の改善

技術開発者が NETIS (評価情報) に掲載されている技術の安全性・耐久性等の技術的事項について改善を行った場合の申請の流れは、以下のとおりです。改善後の技術が改善前と比べて有意差のあることを示す根拠書類を添えて申請窓口へ提出してください。

技術の改善が評価会議で認められた場合には、改善後の NETIS 掲載情報は、新規の申請として運用し、新たな申請情報が NETIS (申請情報) に掲載された日が「当初に NETIS に登録された日」となります。

「様式 I - 16 NETIS 掲載情報の改善技術申請書」の記入方法は P48 をご覧ください。



(4) 申請手続きの中止

申請者に対して申請窓口にて、申請書類の追加・修正等の作成アドバイスを行っても6ヶ月以上回答がない、もしくは修正する意思がないとみなされる場合は、申請者に確認の上、申請を中止できるものとする。

また、6ヶ月以上申請者と連絡が取れない場合、申請を中止できるものとする。

例：最終の修正指示日から6ヶ月経過 → 申請者に確認 → 回答なし → 申請中止

(5) 一時掲載中止の申請

以下に該当する場合は、申請窓口へ連絡を行い、申請の一時中止を申請する。

なお、情報の提供を中止した事由が解消したことが明確に確認できた場合は、情報の提供を再開する。

情報の提供を中止した事由が解消した技術に関して、申請者の責によるものでない場合は、中止の期間を当初掲載期間より延期できるものとする。

- ①申請情報の内容に、虚偽・誇大表示若しくは他の技術の中傷表示が認められたとき又はその疑いがあるとき
- ②申請情報及び申請技術が、他の技術の知的財産権等を侵害したと認められたとき又は疑いがあるとき
- ③申請情報及び申請技術に関して、法律に基づく処罰等を受けたとき又は係争が生じたとき
- ④申請技術を適用した工事等で事故及び不具合等が生じた場合において、申請技術が原因であると認められるとき又はその疑いがあるとき
- ⑤NETIS 申請者が、整備局等と取り交わした実施規約等に違反したとき

(6) 同一技術の重複申請等の禁止

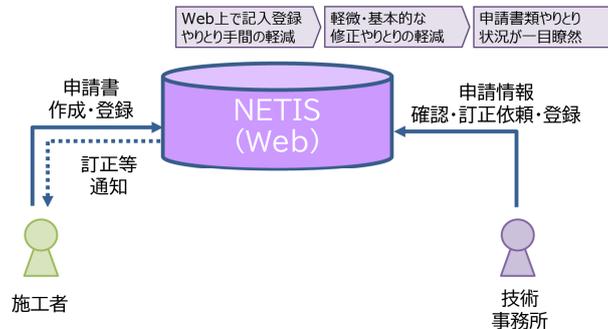
同一技術を複数の申請・相談窓口へ申請すること、又は申請却下等となった登録不可技術を再度申請したことが確認できた場合、登録手続きを中止する場合があります。

(2) 技術概要説明資料（様式 2）

A. 入力システムの概要

◆登録申請に要する日数短縮・事務の省力化を目的に NETIS 改良を実施しました。

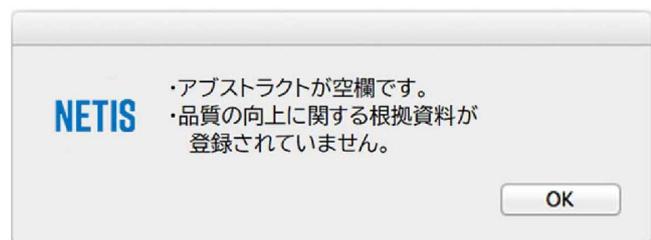
- 手続き全てを Web 上で実施。申請から登録までを迅速化。
- 申請事務手続きの軽減により、新技術活用（登録）を促進。



- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| ●申請資料をメール等で幾度もやりとり | → ○Web 上で記入登録、次記載者に自動通知 |
| ●何を記載すれば良いか分からない | → ○入力アシスト機能 (QA チャットボット、簡易な文章チェック) |
| ●重複する記載項目があり負担が大きい | → ○不備、空欄等の自動確認機能 |
| | → ○様式の簡素化 |
| | → ○様式間重複記入箇所の自動転記 |



Web 上で記入・保存



不備、空欄等を自動確認通知

B. 利用時の留意点

①メールの送信について

オンライン新技術申請では、メール配信による各種通知を行います。

受信環境によっては、通知されたメールが迷惑メールと判断されてしまう可能性があります。メールが通知されない場合は、メールが迷惑メールとしてフィルタリングされていないか、ご確認ください。

②システムへの初回アクセス時の画面表示について

システムへ初めてアクセスする場合、アクセス解析のためのユーザ情報選択画面が表示される場合があります。

画面が表示された場合、お手数ですが情報を選択・送信のうえ、再度手続きを実施いただくようお願いいたします。

③オンライン新技術登録申請用 ID・パスワードの管理について

オンライン新技術登録申請にあたり、ID・パスワードが必要になります。

ID・パスワードは申請者が発行申請後、受付窓口が申請を承認することで発行されます。

承認後、ID・パスワードのみ記載されたメールが申請者へ送信されますので、受信後紛失しないよう管理をお願いいたします。

※申請者側でID・パスワードを紛失してしまった場合は、再発行が必要になりますので、受付窓口にてお問合せください。

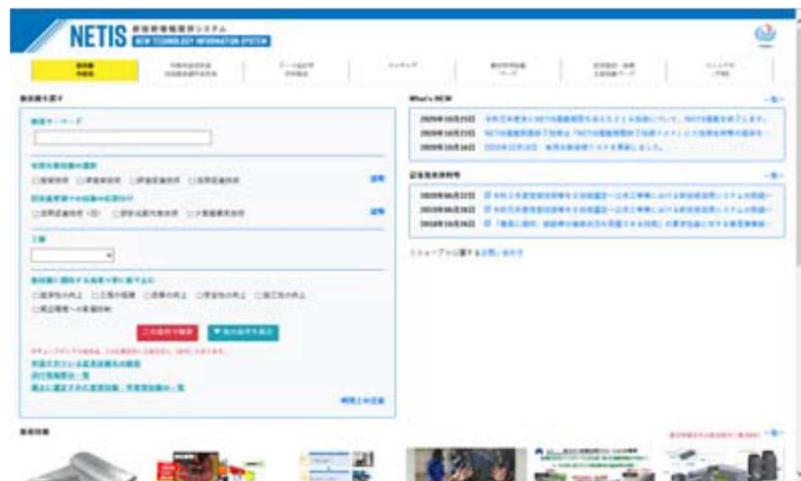
C. 本操作で利用するシステム

オンライン新技術登録申請では、以下のシステムを利用します。

1. NETIS 公開ページ

URL : <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>

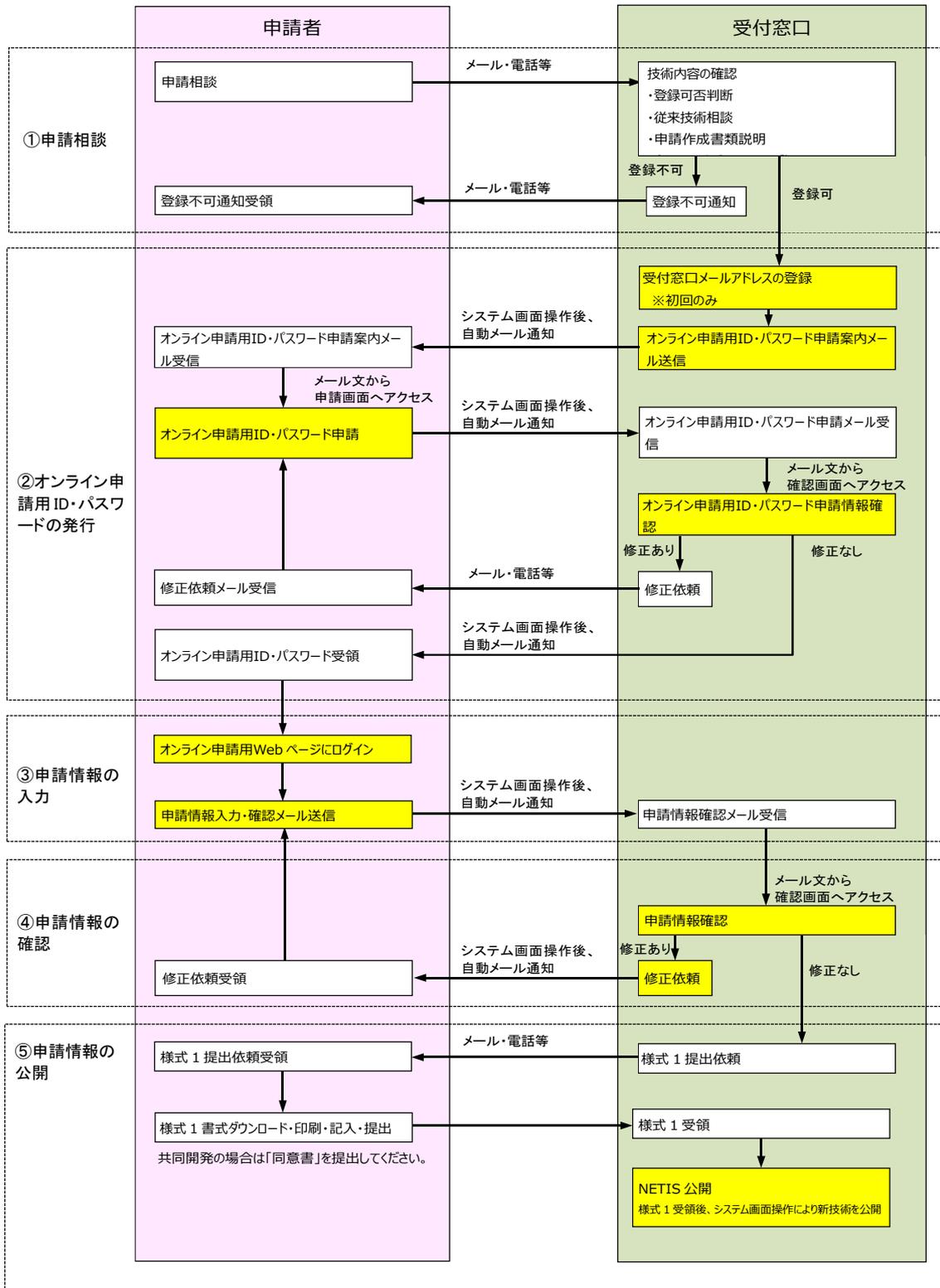
新技術登録のための情報入力や申請、登録後の情報の閲覧を実施



D. オンライン新技術登録申請の操作手順

a. 実施フロー

オンライン新技術登録申請の実施フローを次に示します。



※ : NETISシステムを利用して実施する内容

図. オンライン新技術登録申請実施フロー

b. 実施手順

①申請相談

本項目ではNETISは利用しません。メール・電話等での対応をお願いいたします。

申請者は持参またはメール等での問い合わせ（NETISシステムは利用しない）により、受付窓口にて申請相談を行ってください。

受付窓口より、新技術登録が可能であると連絡があった場合、「②オンライン申請用ID・パスワードの発行」の手続きに進んで下さい。

②オンライン申請用ID・パスワードの発行

オンライン新技術登録申請にあたり、受付窓口からオンライン申請用ID・パスワード申請案内メールを送信します。

受付窓口へ、メールを受信するメールアドレスを連絡してください。

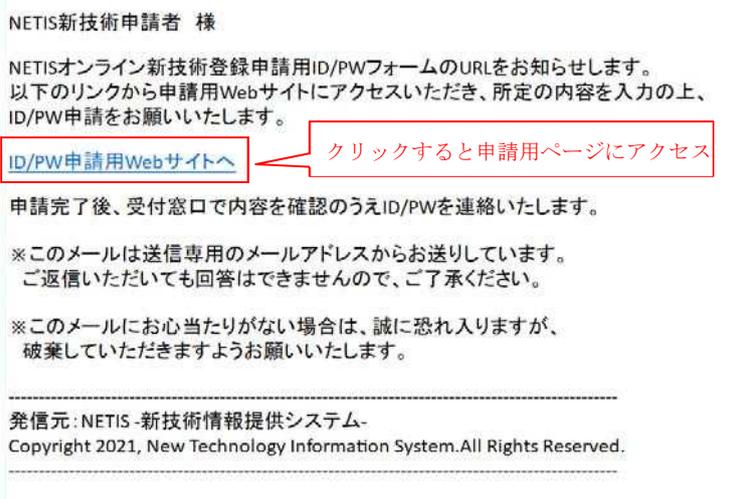
受付窓口を通じてシステムより、連絡いただいたメールアドレス宛に、オンライン申請用ID・パスワード申請案内メールが送信されます。

申請者は、自動送付されたメールから、以下の手順に従い、ID・パスワード申請用Webページへアクセスし、ID・パスワード申請を行ってください。

※メールが届かない場合は、メールが迷惑メールに分類されていないか確認いただき、迷惑メールに判定されている場合は、受信許可設定をお願いいたします。

【システム操作手順】

1. 受付窓口から自動送付されたメールを開き、本文中のリンクをクリックして、申請用画Webページへアクセスする。



2. Web ページ上に情報を入力し、「確認」をクリックする。

The screenshot shows the 'NETIS 新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM' interface. The main heading is '新技術登録申請用ID/PWの申請' (Application for ID/PW for New Technology Registration). Below it, a sub-heading reads '申請フォームに内容を入力の上、「確認」ボタンを押してください。' (Please enter the content in the application form and click the 'Confirm' button). The form fields are as follows:

申請地整 (受付地整)	関東地方整備局
申請会社名	申請会社
所属	技術部
担当者	申請者
E-MAIL	xxxx@xxx.co.jp
電話番号	00-0000-0000
技術名 (仮)	技術名
副題 (仮)	副題
概要 (仮)	概要

At the bottom of the form area, there are two buttons: '中止' (Cancel) and '確認' (Confirm). The '確認' button is highlighted with a red box. The footer contains navigation links: '新技術の検索', '新技術の登録申請', 'テーマ設定型の比較表', and 'プライバシーポリシー'.

3. 入力内容に間違いがないか確認されるので、間違いなければ「申請」をクリックする。

This screenshot shows a confirmation dialog box overlaid on the application form. The dialog box title is '新技術登録申請用ID/PWの申請' and the text inside asks '以下内容で申請してもよろしいですか?' (Is it okay to apply with the following content?). The form fields are identical to the previous screenshot:

申請地整 (受付地整)	関東地方整備局
申請会社名	申請会社
所属	技術部
担当者	申請者
E-MAIL	xxxx@xxx.co.jp
電話番号	00-0000-0000
技術名 (仮)	技術名
副題 (仮)	副題
概要 (仮)	概要

At the bottom of the dialog box, there are two buttons: '修正' (Modify) and '申請' (Apply). The '申請' button is highlighted with a red box. The background form is dimmed.

4. 「申請」クリック後、下記メッセージが表示され、申請メールが受付窓口あてに送付される。

The screenshot shows a success message dialog box. The text inside reads: '受付窓口へNETIS登録オンライン申請システム 申請者入力用ID/PW発行を申請しました。' (Application for ID/PW issuance for NETIS registration online application system submitted to the reception window). Below the text is an 'OK' button. The background shows the application form with the following fields:

申請地整 (受付地整)	関東地方整備局
申請会社名	申請会社
所属	技術部
担当者	申請者

受付窓口により、申請された内容について確認・承認が行われます。

内容に問題がある場合は、受付窓口からメール・電話等で修正依頼連絡が行われます。申請者は、修正依頼内容に従い、再度、作業を行ってください。

③申請情報の入力

申請者は、「②オンライン申請用 ID・パスワードの発行」で取得したオンライン申請用 ID・パスワードを利用し、以下の手順に従って新技術登録申請情報の入力を行ってください。

【システム操作手順】

1. 受付窓口から自動送付されたメールに記載されているリンクをクリックし、申請用 Web ページへアクセスする。

NETIS新技術申請者 様

NETISオンライン新技術登録申請用ID/PW発行申請が承認されましたので、ID/PWをお知らせします。
以下のID/PWで、新技術登録申請Webサイトへログインの上、新技術登録申請をお願いいたします。
※ID/PWはログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いいたします。

【ID/PW】

ID

PW

ID・PWを表示（ログインに利用）

【申請者情報】

申請地整(受付地整)

申請会社名

所属

担当者

E-MAIL

電話番号

技術名(仮)

副題(仮)

概要(仮)

申請者情報を表示

【新技術登録申請Webサイト】

[新技術登録申請用Webサイトへ](#)

クリックすると申請用ページにアクセス

※このメールは送信専用のメールアドレスからお送りしています。
ご返信いただいても回答はできませんので、ご了承ください。

※このメールにお心当たりがない場合は、誠に恐れ入りますが、
破棄していただきますようお願いいたします。

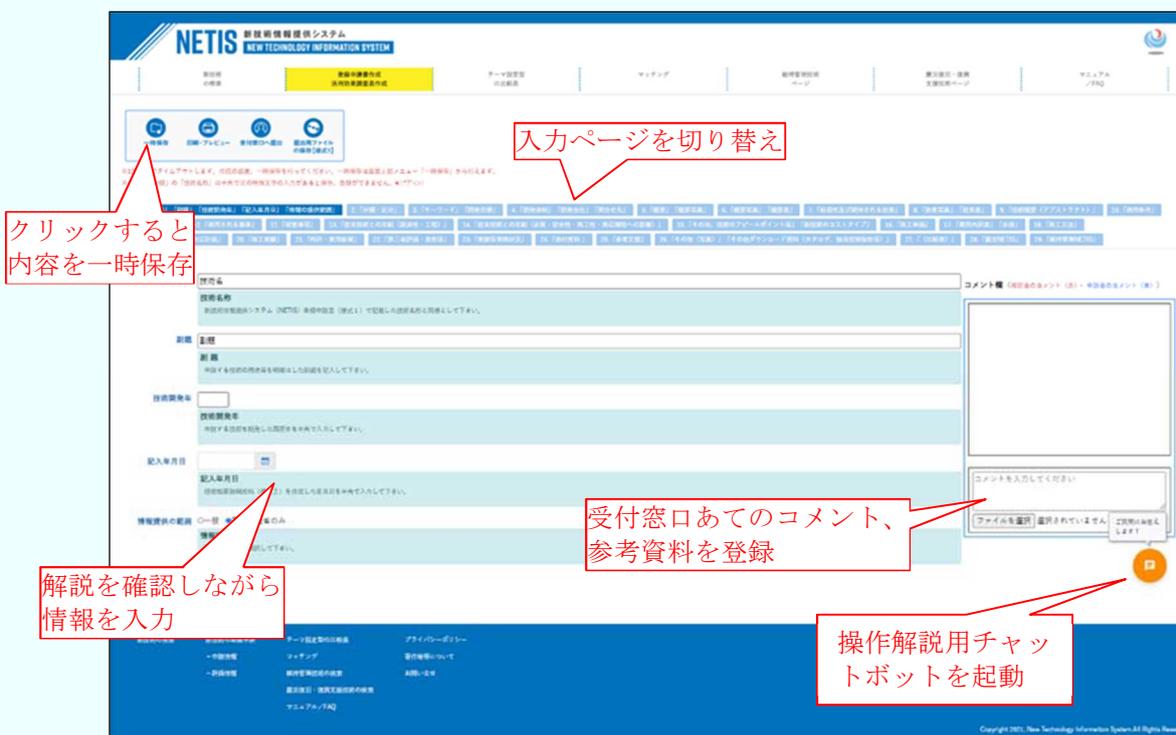
発信元: NETIS-新技術情報提供システム-

Copyright 2021, New Technology Information System.All Rights Reserved.

2. ページ上に「②オンライン申請用 ID・パスワードの発行」で取得したオンライン申請用 ID・パスワードを入力し、「ログイン」をクリックしてログインする。



3. ログイン後、表示された Web ページに申請情報を入力する。



- ・ ページ上に解説が記載されているため、確認しながら情報を入力する。
- ・ 作業中断のため、入力内容の一時保存も可能。一時保存した内容はシステムに保管され、再度ログインすると復旧される。
- ・ 必要に応じて「コメント入力欄」に受付窓口へ伝えたいことを記載する。
- ・ 「誤字チェック」が表示されている入力欄は、「誤字チェック」をクリックすると、入力内容の誤字チェックが行われる。

※その他申請画面の詳細は、[E. オンライン新技術登録申請の入力方法 \(P21～\)](#)をご確認ください。

チャットボットとは？

「チャットボット (chatbot)」とは、「チャット」と「ボット (ロボットの略)」を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」のこと。

お問い合わせ方法は、以下の3つです。

- ①ボタンより選択 ②自由記入 ③音声入力

The screenshot shows the NETIS chatbot interface with a grid of buttons. A red box highlights the entire grid, and a red arrow points from a label '①ボタンより選択' to the '新技術登録申請について' button. Below the grid, there is a text input field with a red box around it and a label '②自由記入' pointing to it. To the right of the input field is a red '音声入力' button with a label '③音声入力' pointing to it.

回答例

質問：従来技術がわからない場合はどうしたらいいですか？

The screenshot shows the chatbot's response to the question. The response text is: 「比較対象となる『従来技術』が不明な場合は、申請・相談窓口にご相談して下さい。問い合わせ先は以下からご確認ください。」 followed by a list of contact information and a URL: <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/publink/puboffices>.

4. 申請者は、画面上の「受付窓口へ送信」ボタンをクリックする。クリック後、エラーチェックが行われ、入力内容に不備がある場合は、該当箇所が表示される。入力内容に問題がない場合は、内容がシステムに仮登録され、受付窓口へ申請情報確認メールが自動送信される。

The screenshot shows the application form with a red box around the '受付窓口へ提出' button. A red arrow points from a text box to this button. The text box contains: 「受付窓口へ提出」をクリックすると、エラーチェック後システム仮登録が行われる。

※エラーが表示された場合は、該当箇所を修正後、再度「受付窓口へ送信」ボタンをクリックしてください。

④申請情報の確認

受付窓口において、「③申請情報の入力」で入力された申請情報の確認を行います。

内容に問題がある場合は、受付窓口から修正依頼メールが送信されます。修正依頼メールを受信した場合は、再度メールから申請ページへアクセスし、内容の修正・再提出を行ってください。

⑤申請情報の公開

受付窓口より、「④申請情報の確認」で申請情報に問題がないことを確認後、メール・電話等で様式1の提出依頼が行われます。

申請者は受付窓口からの様式1の提出依頼を受信後、再度メールから申請ページへアクセスし、様式1書式を印刷・記入のうえ、受付窓口へ提出してください。

受付窓口により、申請情報の本登録が行われます。本登録と同時に、申請情報が公開用ページに公開されます。

公開後、申請内容が NETIS に表示されます。

以下より各ページにアクセスし、申請技術を検索のうえ、申請内容が表示されていることを確認してください。

NETIS 公開ページ

URL : <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>

新技術登録のための情報入力や申請、登録後の情報の閲覧を実施

⑥申請情報の管理・ID/PWの再発行等

登録された申請情報の変更や、ID/PWの再発行が必要な場合は、受付窓口へ連絡してください。

E. オンライン新技術登録申請の入力方法

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

1 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2 「分類・区分」	3 「キーワード」「開発日標」	4 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5 「概要」	6 「概要写真」「概要表」	7 「新用性及び期待される効果」	8 「効果写真」「効果表」	9 「技術概要(アブストラクト)」	10 「適用事例」
11 「適用範囲」	11.2 「適用される基準」	12 「審査事項」	13 「従来技術との比較(経済性・工期)」	14 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」	15 「その他、技術のアドバンポイント等」「新技術のコストタイプ」	16 「施工手順」	17 「費用内訳表」「見積」	18 「施工方法」	
19 「今後の課題とその対応計画」	20 「施工実績」	21 「特許・実用新案」	22 「第三者評価・表彰等」	23 「実験等実施状況」	24 「添付資料」	25 「参考文献」	26 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27 「比較表」	28 「選択NETIS」
29 「維持管理NETIS」									

① 技術名称 コメント欄 (確認者のコメント (※)、申請者のコメント (※))

技術名称
新技術情報提供システム (NETIS) 登録申請書 (様式1) で記載した技術名称と同様として下さい。

② 副題

副題
申請する技術の用途等を明確にした副題を記入して下さい。

③ 技術開発年

技術開発年
申請する技術を開発した西暦年を半角で入力して下さい。

④ 記入年月日

記入年月日
技術概要説明資料 (様式2) を作成した年月日を半角で入力して下さい。

⑤ 情報の提供範囲 一般 国土交通省のみ

情報の提供範囲
原則、「一般」選択して下さい。

①技術名称

<書き方のポイント>

- 申請する新技術の名称をフルネームで記入してください。
- NETIS 登録後は技術名称を基本的に変更できません。
- 商標登録されていないか、既に NETIS に登録されている技術名称と同一でないか確認してください。
- また、名称に「新」を付けたり、型番や会社名を入れないでください。
- 技術名称は、技術の内容及び特色が容易に理解できる名称としてください。

②副題

<書き方のポイント>

- 申請する技術の用途等を明確にした副題を記入して下さい。
- 申請する新技術の用途等を明確にした「技術副題」を記入してください。
- 記載のポイントは以下のとおりです。
- 技術名だけでは不明なものを補完し、技術内容が十分把握できる副題。
- 特にその技術の「売り」になっている内容を記載した副題。

③技術開発年

- 申請する技術を開発した西暦年を半角で入力して下さい。

④記入年月日

- 技術概要説明資料 (様式2) を作成した年月日を半角で入力して下さい。

⑤情報の提供範囲

- 原則、「一般」選択して下さい。

2. 「分類・区分」

1 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2 「分類・区分」	3 「キーワード」「開発日標」	4 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5 「概要」	6 「概要写真」「概要表」	7 「新用性及び期待される効果」	8 「効果写真」「効果表」	9 「技術概要(アブストラクト)」	10 「適用事例」
11 「適用範囲」	11.2 「適用される基準」	12 「審査事項」	13 「従来技術との比較(経済性・工期)」	14 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」	15 「その他、技術のアドバンポイント等」「新技術のコストタイプ」	16 「施工手順」	17 「費用内訳表」「見積」	18 「施工方法」	
19 「今後の課題とその対応計画」	20 「施工実績」	21 「特許・実用新案」	22 「第三者評価・表彰等」	23 「実験等実施状況」	24 「添付資料」	25 「参考文献」	26 「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術資料等)」	27 「比較表」	28 「選択NETIS」
29 「維持管理NETIS」									

分類・区分 1 から順に選択してください。(新技術が主に適用される分類1を入力してください。)分類一覧をダウンロード

① 分類

レベル1 レベル2 レベル3 レベル4

② 区分

区分

プルダウンメニューより、該当する区分を選択して下さい。

「工法」、「材料」、「機械」、「製品」、「システム」から選択して下さい。なお、各区分の定義は次のとおりです。

「工法」：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法。

「材料」：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材。

「機械」：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械。

「製品」：公共工事等により製作、築造される物を構成する一部位であり、新たな加工を要さないもの

「システム」：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT 等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す。

分類および区分について、ご不明な点がありましたら、申請・相談窓口にご相談して下さい。

①分類

- プルダウンメニューより、レベル1～レベル4まで選択して下さい。(注) 分類については、申請した新技術を主として活用される分類(工種)を記入して下さい。
- 分類が複数あるものは、分類2以降も入力して下さい。(注) 評価する際に適用となる工種は分類1です。
- 但し、従来技術との比較については分類1に記載した工種で比較すること。
- レベル1：土工、共通工、基礎工など31種類から選択して下さい。
- レベル2：レベル1を細分化したもので、例えば、レベル1：土工の場合、土工、安定処理工、路床改良工、軽量盛土工、施工管理、その他
- レベル3：レベル2を細分化したもので、例えば、レベル2：施工管理の場合、施工管理
- レベル4：レベル3を細分化したもので、例えば、レベル3：施工管理の場合、品質管理、出来形管理、その他

<書き方のポイント>

- 分類1から分類5まで最大5分類までプルダウンから選定することができます。
- 分類については、NETIS 申請情報の「工種で検索」を参考に選択して下さい。
- 分類1には評価対象とする分類を選定してください。
- 分類は官側でチェックを行い、開発者に修正を願う場合があります。

②区分

- プルダウンメニューより、該当する区分を選択して下さい。
- 「工法」、「材料」、「機械」、「製品」、「システム」から選択して下さい。なお、各区分の定義は次のとおりです。
- 「工法」：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法。
- 「材料」：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材。
- 「機械」：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械。
- 「製品」：公共工事等により製作、築造される物を構成する一部位であり、新たな加工を要さないもの
- 「システム」：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT 等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す。

・分類および区分について、ご不明な点がありましたら、申請・相談窓口にご相談して下さい。

3. 「キーワード」「開発目標」

1. 「技術名称」 「副題」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「問合せ先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」 「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用業界」 11. 「適用期間」 11-2. 「適用される標準」 12. 「習得事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」 16. 「施工準備」 17. 「費用内訳表」 「歩掛」 18. 「施工方法」 19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実験等実施状況」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術情報等）」 27. 「比較表」 28. 「審査NET等」 29. 「維持管理NET等」

① キーワード 安心・安全 環境 情報化 コスト削減・生産性の向上 公共工事の品質確保・向上 景観 伝統・歴史・文化 リサイクル

キーワード
キーワードは、最大で3つまで選択して下さい。
自由記入欄は、技術提案を端的に表現する言葉を3つまで記入することができます。
キーワードおよび自由記入欄は、各々最大3つを選択、記入が可能です（あわせて最大3つではありません。）

② 開発目標 省人化 省力化 経済性の向上 施工精度の向上 耐久性の向上 安全性の向上 作業環境の向上 周辺環境への影響抑制 地球環境への影響抑制 省資源・省エネルギー 品質の向上 リサイクル性向上 その他

開発目標
最大で3つまで選択して下さい。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

ご質問にお答えします！

キーワード・開発目標

- ・キーワード・開発目標のチェック項目は、技術の内容や特徴をとらえたものを選択する。
- ・キーワード、開発目標は、13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」、14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」の記載内容とリンクしたものを選択する。

①キーワード

- ・キーワードは、最大で3つまで選択して下さい。
- ・自由記入欄は、技術提案を端的に表現する言葉を3つまで記入することができます。
- ・キーワードおよび自由記入欄は、各々最大3つを選択、記入が可能です（あわせて最大3つではありません。）

②開発目標

- ・最大で3つまで選択して下さい。

4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」

1. 「技術名称」 「副題」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「問合せ先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」 「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用業界」 11. 「適用期間」 11-2. 「適用される標準」 12. 「習得事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」 16. 「施工準備」 17. 「費用内訳表」 「歩掛」 18. 「施工方法」 19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実験等実施状況」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術情報等）」 27. 「比較表」 28. 「審査NET等」 29. 「維持管理NET等」

① 開発体制 共同研究（産・官・学） 単独（産） 単独（官） 単独（学） 共同研究（産・産） 共同研究（産・官） 共同研究（産・学）

開発体制
開発体制は、1つ選択して下さい。
開発会社は、申請する新技術を開発した会社名（正式な会社名）を記入して下さい。また、共同研究の場合は、該当する全てを記入して下さい。
複数入力する場合は「、（区切り）」で記入して下さい。

開発会社

問合せ先（技術）
会社名
部署名
担当者
郵便番号
住所
TEL
FAX
E-MAIL
URL

② 問合せ先（営業）
会社名
部署名
担当者
郵便番号
住所
TEL
FAX
E-MAIL
URL

問合せ先（その他）
項目追加 トラックアンドドロップで順番を変更可能です

会社名	部署名	担当者	郵便番号	住所	TEL	FAX	E-MAIL

追加 閉じる

①開発体制

- ・開発体制は、1つ選択して下さい。
- ・開発会社は、申請する新技術を開発した会社名（正式な会社名）を記入して下さい。また、共同研究の場合は、該当する全てを記入して下さい。
- ・複数入力する場合は「、（区切り）」で記入して下さい。

②問合せ先

- ・技術：申請する新技術の技術的な内容に関する問合せ先と担当者名を記入して下さい。
- ・営業：申請する新技術の営業に関する問合せ先と担当者名を記入して下さい。（技術と同様の場合にも記入して下さい）。
- ・その他：共同開発または営業関連企業を記入して下さい（40件まで追加できます）。

5. 「概要」

1 「技術名称」 「説明」 「提出開始日」 「提出の優先順位」 2 「分類」 「区分」 3 「キーワード」 「提出日限」 4 「関係団体」 「関係会社」 「関係者名」 5 「概要」 6 「概要写真」 「概要表」 7 「新規性及び期待される効果」 8 「効果写真」 「効果表」 9 「技術概要(アブストラクト)」 10 「適用事例」

11 「適用範囲」 11-2 「適用される基準」 12 「審査事項」 13 「従来技術との比較(経済性・工程)」 14 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」 15 「その他、評価のポイント等」 「新技術のコストタイプ」 16 「施工手順」 17 「費用内訳表」 「多岐」 18 「施工方法」

19 「今後の課題とその対応計画」 20 「施工実績」 21 「特許・実用新案」 22 「第三者評価・表彰等」 23 「実験等実施状況」 24 「添付資料」 25 「参考文献」 26 「その他(写真)」 「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術情報等)」 27 「比較表」 28 「選択NETIS」 29 「維持管理NETIS」

NETISに掲載する概要です。全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① 何について何をする技術なのか？

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 従来は、どのような技術で対応していたのか？

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ 公共工事のどこに適用できるのか？

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ その他

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

概要
概要は、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。
①何について何をする技術なのか？
②従来は、どのような技術で対応していたのか？
③公共工事のどこに適用できるのか？
追記の必要がある場合は、「④その他」に記述して下さい。

コメント欄 (確認者のコメント (※)、申請者のコメント (※))

コメントを入力してください

ご質問にお答えします！

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

概要	<ul style="list-style-type: none"> 概要は、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。 ①何について何をする技術なのか？ ②従来は、どのような技術で対応していたのか？ ③公共工事のどこに適用できるのか？ 追記の必要がある場合は、「④その他」に記述して下さい。 ②は、「13. 「従来技術との比較 (経済性・工程)」」での「従来技術名」の内容を反映させて下さい。
①何について何を する技術な のか？	<ul style="list-style-type: none"> NETISに掲載する概要です。全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。 <書き方のポイント> このように箇条書きで簡潔に表現して下さい。 出来るだけ従来使用している表現で、一言で表して下さい。 例 ○ 深層混合処理工法 厚層基材吹きつけによる法面安定工法 など × 軽量盛土と再生木材による^{※1}擁壁工法で、工期短縮・環境負荷軽減・コスト縮減に寄与する^{※2}事が出来る画期的なもの^{※3}である。 ※1：新規性及び期待される効果の①に記述する内容です。 ※2：新規性及び期待される効果の②に記述する内容です。 ※3：このような主観的な表現は、概要の説明には不用です。 また、補足説明が必要な場合などについては、③まで書き終えてから、④・その他・追記・詳細等で見出しを作成していただき、そこに文字数の許す範囲で記述して下さい。
②従来は、どのよ うな技術で対応し ていたのか？	<ul style="list-style-type: none"> <書き方のポイント> △△工事 このように箇条書きで簡潔に表現して下さい。 従来技術とは、申請技術の比較対象となる技術で、評価する際の比較基準となります。なお、従来技術は過去に自社で開発されたもの、自他社においてNETISに登録されている技術は不可とし、工法・機械等については、原則として「国土交通省土木工事標準積算基準」、「港湾土木請負工事積算基準」等に記載されている工法から選定して下さい。材料等については、一般的に使用されているものから選定して下さい。
③公共工事のどこ に適用できるの か？	<ul style="list-style-type: none"> <書き方のポイント> 「・」で整理し、簡潔に記述して下さい。 削孔が必要な工事 例) ・道路工事 ・車線拡幅工事 ・地滑り対策工事 などのように併記して下さい。
④その他	<ul style="list-style-type: none"> 補足説明が必要な場合などについては、③まで書き終えてから、④・その他・追記・詳細等で見出しを作成していただき、そこに文字数の許す範囲で記述して下さい。

7. 「新規性及び期待される効果」

1. 「技術名称」 「説明」 「提出開始年」 「記入年月日」 「特許の権利範囲」	2. 「名称」 「区分」	3. 「キーワード」 「開発日標」	4. 「開発体制」 「開発会社」 「開示状況」	5. 「概要」	6. 「従来技術」 「従来品」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「従来技術」 「従来品」	9. 「技術概要 (アブストラクト)」	10. 「従来技術」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される業界」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較 (経済性・工期)」	14. 「従来技術との比較 (品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」	15. 「その他、技術のアドバンテージ等」 「新技術のコストメリット」	16. 「施工手順」	17. 「費用内訳表」 「多岐」	18. 「施工方法」	
19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「原付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他 (写真)」 「その他ダウンロード資料 (カタログ、独自技術開示等)」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」
								29. 「維持管理NETIS」	

新規性及び期待される効果 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①どこに新規性があるのか？ (従来技術と比較して何を改善したのか？)

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②期待される効果は？ (新技術活用のメリットは？)

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③その他

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

新規性及び期待される効果

比較対象となる「従来技術」がない場合は、申請・相談窓口にご相談下さい。
従来技術に比べどのような効果が期待できるかについての概要を以下の点に対して番号書きで簡単に記入して下さい。
①どこに新規性があるのか？ (従来技術と比較して何を改善したのか？)
②期待される効果は？ (新技術活用のメリットは？)
改善点は、可能な限り定量化して下さい。
例) コスト〇%削減
従来技術は、後述する「従来技術との比較：活用の効果」で記入したものを示しています。

コメント欄 (確認者のコメント (※)、申請者のコメント (※))

コメントを入力してください

ご質問にお答えします！

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

新規性及び期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 比較対象となる「従来技術」がない場合は、申請・相談窓口にご相談下さい。 従来技術に比べどのような効果が期待できるかについての概要を以下の点に対して番号書きで簡潔に記入して下さい。 ①どこに新規性があるのか？ (従来技術と比較して何を改善したのか？) ②期待される効果は？ (新技術活用のメリットは？) 改善点は、可能な限り定量化して下さい。 例) コスト〇%削減 従来技術は、後述する「従来技術との比較：活用の効果」で記入したものを示しています。 全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
①どこに新規性があるのか？ (従来技術と比較して何を改善したのか？)	<ul style="list-style-type: none"> ①は従来技術との比較した際の新規性であり、申請している技術を用いた際に新たに得られる効果は、②に記入してください。 <p><書き方のポイント></p> <p>例 ・盛土材を××から〇〇に変えた。 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート製のプレキャスト板が、廃材を利用した再生木材からなる板になった。 (C) (D) ・改良機の先端にリブを取り付けた。 (E) <p>・このように、AをBに変えた。CがDになった。Eを追加した。Fを取り除いた等、物理的・理論的変更要因を番号書きで簡潔に記述してください。</p> <p>・尚、このような表現が出来ない場合は、改善された新規性等技術の優位性や特徴を記述して頂いて構いません。</p>
②期待される効果は？ (新技術活用のメリットは？)	<p><書き方のポイント></p> <p>例 ・盛土材を〇〇に変えたことにより、<u>地盤改良の必要性が無くなり、コストメリットが向上した。</u> (B) 具体的なメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生木材からなる板を使用することにより、<u>環境負荷を軽減出来、かつコスト削減が図られる。</u> (D) 具体的なメリット ・<u>リブを取り付けたことにより、直進性が向上し、品質向上に繋がった。</u> (E) 具体的なメリット <p>・このように、①の「・」に対して②の「・」を対応させてください。</p> <p>・例えば①ではAをBにしています。Bにしたことにより何かが起こっています。それがメリットとなり、②でBに変えたことにより□□が向上した等の効果が、番号書きで簡潔に記述出来るようになります。</p> <p>・ここで□□が向上した等の効果は、実験等で実証・確認された結果として下さい。また、アブストラクトを記載する際、その構成材料となります。</p> <p>・尚、①と②が対応出来ない内容や、このような表現が出来ない場合は、効果やメリット等技術の優位性や特徴を記述して頂いて構いません。</p>
③その他	<p><書き方のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 開発、コンセプトに至った経緯や、メリットの詳細、説明の必要がある着眼点などは②までを書き終えてから、③、その他、追記、詳細・・・等の見出しを作成して頂き、そこに文字数の許す範囲で記述して下さい。

8. 「効果写真」「効果表」

The screenshot shows the 'Effect Photos' and 'Effect Table' sections of the application form. The 'Effect Photos' section includes a file upload area with instructions: 'Upload photos that clearly show the new technology (original color) using the selection button and "Open File" screen. Photos must be in JPEG or GIF format. Max size: 2MB. Max dimensions: 600px width, 1000px height. A 25-character title is required. A 200-character comment is optional. A 'File Selection' button is present. The 'Effect Table' section features a table with columns for 'View' and 'Number of Rows' (0). A 'Table' title field is also present. A 'File Selection' button is also present.

①効果写真

- 申請する新技術が良く分かる写真（原則カラー）を使用して下さい。
- 選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
- 写真タイトルを必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。
- 写真（図）などのファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
- 画像ファイルの大きさは 2M 以内にして下さい。
- 画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にして下さい（縦 A4 サイズで出力できる）。
- 図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

②効果表

- 一覧表が作成できます。
- 20 列×20 行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

9. 「技術概要（アブストラクト）」

The screenshot shows the 'Technical Summary (Abstract)' section of the application form. It includes a text input field for the abstract, a 'Character Check' button, and a 'File Selection' button. The text input field has a placeholder: 'Technical Summary (Abstract)'. The 'Character Check' button has a tooltip: 'Check for spelling errors. Example: 誤字対象文字, 修正候補'. The 'File Selection' button is labeled 'File Selection' and 'File not selected'. A 'Comment' field is also present.

①技術概要（アブストラクト）

- 検索結果に表示する技術の概要です。全角 127 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
- 技術概要は、申請技術の特徴が明確にわかるように『概要』、『新規性及び期待される効果』で記述した内容を簡潔にまとめて下さい。

例) 本技術は、土留め・河川護岸・止水壁工事に用いる鋼矢板であり、従来は、U型鋼矢板で対応していた。本技術の活用により、材料費・施工費の縮減や工期の短縮を期待できる。

<書き方のポイント>

- 本技術は○○○○工法^{※1}で、従来は△△工法^{※2}で対応していた。本技術の活用によりコスト縮減が図られ、品質の向上^{※3}が期待出来る。

※1 概要：①何について何をやる技術なのか？ に対して記述した内容となります。

※2 概要：②従来はどのような技術で対応していたのか？ で記述した内容となります。

※3 新規性及び期待される効果：②期待される効果は？(新技術活用のメリットは?) で記述した内容のメリットの部分となります。

10. 「適用条件」

1. 「技術名称」 「副題」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」 「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用条件」

11. 「適用範囲」 11-2. 「適用される条件」 12. 「審査事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」 16. 「施工準備」 17. 「費用内訳表」 「労務」 18. 「施工方法」

19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実証等実施状況」 24. 「交付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」 27. 「比較表」 28. 「調査NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

適用条件 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① 自然条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 現場条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ 技術提供可能地域

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ 関連法令等

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

適用条件
適用条件は、申請する新技術の施工、使用上の制約がわかるように、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。
自然条件：適用にあたっての自然条件に関する制約条件について記入して下さい（例：気温、地質、気象等）。

現場条件：作業スペースや支障物などの制約条件について記入して下さい（例：作業スペース、機械の大きさ、施工場所等）。
施工現場等で複数の機種がある場合は、適用条件を個々に記載して下さい。

技術提供可能地域：提供できない地域または提供地域が限定される場合、記載して下さい。
新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名と簡単な理由を記述して下さい。
制約がない場合は、「技術提供地域については制限無し」として下さい。
例1) ③技術提供可能地域：技術提供地域については制限無し
例2) ③技術提供可能地域：プラント設置地区限定（〇〇県、□□県、H〇年〇月現在）
例3) ③技術提供可能地域：九州地区限定（現段階で運搬可能な地域）

関連法令等：法令上遵守しなければならない条件を記載して下さい。

* 記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。

適用条件	<ul style="list-style-type: none"> 適用条件は、申請する新技術の施工、使用上の制約がわかるように、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。 記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。 全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
①自然条件	<ul style="list-style-type: none"> 適用にあたっての自然条件に関する制約条件について記入して下さい（例：気温、地質、気象等）。
②現場条件	<ul style="list-style-type: none"> 作業スペースや支障物などの制約条件について記入して下さい（例：作業スペース、機械の大きさ、施工場所等）。 （作業スペース〇〇㎡、機械の大きさ〇〇m×〇〇m、施工場所等） 施工機械等で複数の機種がある場合は、適用条件を個々に記載して下さい。
③技術提供可能地域	<ul style="list-style-type: none"> 提供できない地域または提供地域が限定される場合、記載して下さい。 新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名と簡単な理由を記述して下さい。 制約がない場合は、「技術提供地域については制限無し」として下さい。 例1) ③技術提供可能地域：技術提供地域については制限無し 例2) ③技術提供可能地域：プラント設置地区限定（〇〇県、□□県、H〇年〇月現在） 例3) ③技術提供可能地域：九州地区限定（現段階で運搬可能な地域）
④関連法令等	<ul style="list-style-type: none"> 法令上遵守しなければならない条件を記載して下さい。 発行年・発行元も記述してください。 記載事項がない場合には、「特になし」と記述してください。 労働安全衛生法等は特に記述しなくても構いません。 基準書等は記述する必要はありません。

11. 「適用範囲」

<p>適用範囲 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。</p> <p>①適用可能な範囲</p> <p>誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します</p> <p>②特に効果の高い適用範囲</p> <p>誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します</p> <p>③適用できない範囲</p> <p>誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します</p> <p>適用範囲 適用範囲は、技術として成立するために最低限必要な基準や管理値、規格値およびその引用元を、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。 適用可能な範囲：施工量、規模、地域などを記載して下さい。 特に効果の高い適用範囲：技術のアピールポイント（従来技術との比較－活用の効果 の欄）と整合するように記入して下さい。 適用できない範囲：適用できない理由を明確に記載して下さい。 適用にあたり、関係する基準および引用元：土木関連法規やその他基準等を記入して下さい。 ＊記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。</p>	<p>適用範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適用範囲は、技術として成立するために最低限必要な基準や管理値、規格値およびその引用元を、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。 記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。 全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
	<p>①適用可能な範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施工量、規模、地域などを記載して下さい。
	<p>②特に効果の高い適用範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①の中で特に効果の高い条件を具体的に記述してください。 技術のアピールポイント（従来技術との比較－活用の効果 の欄）と整合するように記入して下さい。
	<p>③適用できない範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適用できない理由を明確に記載して下さい。

11-2. 「適用される基準」

1. 「技術名称」 「範囲」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発状況」 5. 「標準」 6. 「標準写真」 「標準表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用範囲」

11. 「適用される基準」 12. 「協会等」 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」（新技術のコストタイプ） 16. 「施工準備」 17. 「費用内訳表」（歩掛） 18. 「施工方法」

19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実験等実証状況」 24. 「発行費料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術冊子等）」 27. 「比較表」 28. 「優良NETS」 29. 「維持管理NETS」

適用される基準 ①設計基準

①

なし

協会等の基準を採用
「協会等の基準を採用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または
[ファイルの選択] ファイル……いません

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

コメントを入力してください

[質問にお答えします！]

[ファイルの選択] ファイルが選択されていません

②積算基準

なし

協会等の歩掛情報を採用
「協会等の歩掛情報を採用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または
[ファイルの選択] ファイル……いません

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

③施工管理基準

なし

協会等の基準を採用
「協会等の基準を採用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または
[ファイルの選択] ファイル……いません

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

①適用される基準

- ・適用にあたり、関係する基準および引用元：土木共通仕様書やその他基準類等を記入して下さい。
- ・発行年・発行元、項目、頁数も記述してください。
- ・記載事項がない場合には、「特になし」と記述してください。
- ・協会のマニュアル等は記述する必要はありません。
例 「〇〇〇基準」（〇〇〇協会 平成〇年度）

12. 「留意事項」

1. 「技術名称」 「新機」 「技術開発年」 「記入年月日」 「掲載の提供期間」 2. 「分類」 「区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」 「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用事例」

11. 「適用範囲」 11-2 「適用される基準」 12. 「留意事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」 16. 「施工手順」 17. 「費用内訳表」 「歩率」 18. 「施工方法」

19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実験等実施状況」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術情報等）」 27. 「比較表」 28. 「違反NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

留意事項 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① ①設計時

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② ②施工時

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ ③維持管理時

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ ④その他

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意事項
留意事項は、申請する新技術を施工あるいは使用するにあたって、以下の点に対して最も適当に記入して下さい。
設計時：設計条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。
施工時：施工条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。
維持管理時：維持管理条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。
その他：特許権等知的財産権、特許使用料の有無や知的財産となる内容。現時点では確認が不十分な事項、その他、留意事項を記入して下さい。また、納入に期間が必要な場合は、任意の数量に対する時期の目安を記入して下さい。
※記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。

コメント欄（確認者のコメント（※）、申請者のコメント（※））

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

ご質問にお答えします！

留意事項

- ・留意事項は、申請する新技術を施工あるいは使用するにあたって、以下の点に対して箇条書きで簡潔に記入して下さい。
- ・記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。
- ・全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

<書き方のポイント>

- ・この欄の記述は重要です。設計、施工、維持管理、その他において、留意する点、つまり注意点などを記述してください。
- ・申請者から見れば当たり前に思える内容でも、閲覧者になると「なるほど」となる内容もあります。
- ・出来ない事、無理な内容など当たり障りない表現でごまかしたりせずに、はっきりと表記してください。その方が技術に対する信頼性があがるはずです。
- ・実際に活用される際の施工現場や適用箇所は、様々な条件下にあり、全てに対して完璧であるということは、あり得ないと思います。即ち、多かれ少なかれ、問題や使い勝手の悪さなど、実施工に係わる様々な現象が起こりえます。そこで、その問題等を現場での工夫で解決したり、新たな課題として捉え運用面・機能面それぞれでの解決を図るために、開発者として思案されたことがあれば、まさにここで記述していただければ、これから活用を考えている方達に、大いに役に立つと思われる、信頼性も向上するはずです。
- ・こういった現場における問題のレアケース対応を怠らなかった事が、技術としてノウハウとなります。
- ・逆に、「施工・使い方が悪いから」とか、「製品の販売だけなので分からない」などというような対応をしてきた場合、ノウハウとしての蓄積は無くなります。
- ・実績による経験上、同じ現象が起こってしまうその原因となる処置を予めさせないようにする「回避策」や、起こってしまった場合の対処方法である「対応策」等の記載もお願いしたいと思います。

①設計時

- ・設計条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。

②施工時

- ・施工条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。

③維持管理時

- ・維持管理条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。

④その他

- ・特許権等知的財産権、特許使用料の有無や知的財産となる内容。現時点では確認が不十分な事項、その他、留意事項を記入して下さい。また、納入に期間が必要な場合は、任意の数量に対する時期の目安を記入して下さい。
- ・技術の提供方法（販売、リース、協力会社のみ施工可等）を記入して下さい。

13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」

1. 「技術名称」 「説明」 「技術開発年」 「記入年月日」 「掲載の項目範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」 「開発目標」 4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発資金」 5. 「概要」 6. 「概要写真」 「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」 「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用条件」

11. 「適用範囲」 11-1. 「適用可能な業種」 12. 「適用学業」 13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、注目のポイント等」 「新技術のユースケース」 16. 「施工手順」 17. 「費用内訳表」 「歩掛」 18. 「施工方法」

19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実施専業協賛社」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、製品技術情報等）」 27. 「比較表」 28. 「審査NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

① 従来技術名

② 経済性

③ 変化値

④ 基準とする数量

⑤ 新技術の内訳追加

⑥ 従来技術の内訳追加

⑦ 項目

⑧ 追加

⑨ 閉じる

⑩ 活用効果

⑪ 変化値

⑫ 比較の根拠

⑬ 活用効果の根拠

⑭ 基準とする数量・単位

⑮ 経済性

⑯ 工程

⑰ 新技術の内訳・従来技術の内訳

⑱ 根拠資料の登録

①従来技術名	<ul style="list-style-type: none"> 申請する新技術の比較対象となる「従来技術名」を挙げてください。 従来技術は、既存の NETIS 登録技術を参考に定め、申請窓口にその妥当性を説明し、確認を得たものを挙げて下さい。 過去に自社で開発されたものとの比較は不可とします。 従来技術名は原則として「国土交通省土木工事標準積算基準」「港湾土木請負工事積算基準」等に記載されている工法から選択して下さい。 (原則として、NETIS 登録されている技術を従来技術とするのは不可とします。) 材料等については、一般的に使用されているものから選定し施工を含めて比較して下さい。
②変化値	<ul style="list-style-type: none"> 「活用効果の根拠」にて算出された値が変化値として自動的に表示されます。 経済性、工程の変化値について、従来技術名の横にある「活用効果の根拠」のボタンを押して、必要事項を記入して下さい。
③比較のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 比較のポイントでは、比較の結果、同程度以外の場合は、必ず記入して下さい。 記入に際しては、何が向上したのか、何が低下したのか 等の「何」にあたる部分を具体的に記述して下さい（全角 30 文字以内）。 例) 安全性が向上した場合 → 落下事故が減少 経済性と工程については、同程度であっても比較の根拠は必ず記入して下さい。
④基準とする数量・単位	<ul style="list-style-type: none"> 「基準とする数量」と「単位」を記入して下さい。 極力 1、10、100 を基準数量として記入して下さい。なお、これにより難しい場合についても具体的な数量当りの費用として記入して下さい（「1 式」当りは不可です）。
⑤経済性	<ul style="list-style-type: none"> 「経済性」の「新技術」および「従来技術」の金額が 0 円となっていないことを確認して下さい。 「経済性」の「変化値」は、下記の「新技術の内訳」と「従来技術の内訳」に記入すると自動計算され、表示されます。また、活用効果欄の「経済性」の「変化値」にも表示されます。
⑥工程	<ul style="list-style-type: none"> 「工程」の「新技術」および「従来技術」の「日数」を記入して下さい。「工程」の「新技術」および「従来技術」の「日数」が 0 日となっていないことを確認して下さい（「新技術」および「従来技術」とも工程が同じでも 0 日は不可です）。 「工程」の「変化値」は、下記の「新技術の内訳」と「従来技術の内訳」に記入すると自動計算され、表示されます。また、活用効果欄の「工程」の「変化値」にも表示されます。
⑦新技術の内訳・従来技術の内訳	<ul style="list-style-type: none"> 「項目」、「仕様」、「数量（半角）」、「単位」、「単価（半角）」を入力して下さい。「金額」は自動計算され、表示されます。 金額は、施工単価を算出するための内訳です。このため、必ずイニシャルコストで計算して下さい。なお、トータルコストが向上する場合は、比較のポイントに詳細を記述して下さい。 条件付で比較する場合は、「摘要」に条件を記入して下さい。なお、比較における条件がない場合は、「特になし」と記入して下さい。
根拠資料の登録	<ul style="list-style-type: none"> 「経済性」「工程」に記載した内容の根拠資料は、「24. 添付資料」に必ず登録してください。

14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」

The screenshot shows a web application for comparing technologies. At the top is a navigation menu with 29 items. The main content area has a table with 8 rows, each representing a comparison point. The rows are: ④ 品質 (Quality), ⑤ 安全性 (Safety), ⑥ 施工性 (Constructability), ⑦ 周辺環境への影響 (Impact on Surrounding Environment), ⑧ 自由項目 (Free Item), ⑧ 自由項目 (Free Item), ⑧ 自由項目 (Free Item), and ⑧ 自由項目 (Free Item). Each row has three radio buttons for '向上' (Improvement), '同程度' (Same level), and '低下' (Deterioration), followed by a '比較のポイント' (Comparison Point) column. To the right of the table is a '根拠資料の入力' (Input of Evidence) column with a red box around it. Below the table is a '活用の効果' (Effect of Use) section with instructions. To the right of the instructions is a large text area for 'コメント欄' (Comment Field) with a '次頁へ' (Next Page) button. Below the comment field is a 'コメントを入力してください' (Please enter a comment) prompt and a 'ご質問にお答えします！' (We will answer your questions!) button. At the bottom right is a file selection area with 'ファイルの選択' (File Selection) and 'ファイルが選択されていません' (No file selected).

①各項目の3段階評価	・各項目（品質～環境）について従来技術と比較して、3段階の内から該当するものを必ず1つ選んで下さい。
②比較のポイント	・比較の根拠では、比較の結果、同程度以外の場合は、必ず記入して下さい。記入に際しては、何が向上したのか、何が低下したのか等の「何」にあたる部分を具体的に記述して下さい（全角30文字以内）。 例）安全性が向上した場合 → 落下事故が減少
③根拠資料の入力	・「品質」等各項目に記載した内容の根拠資料を入力します。（別ウィンドウが立ち上がります。）
④品質（品質・出来形、耐久性）	品物またはサービスが使用目的を満たしているかどうかを決定するための評価の対象となる固有の性質および性能の全体・当該技術の正確さ、寸法、形などの出来上がり技術によって得られる成果が継続的かつ長期的に保持できる性能 ・物性：物理的特性値、化学的特性値を保持できる期間 ・形状：目的物の形状を保持できる期間 ・能力：能力を示す特性値を保持できる期間 ・材料：技術で用いる材料が具備する強度、密度、質量などの特性値 ・施工：技術を適用するプロセスにおいて必要な管理基準や規格値など ・完成物：技術によって得られる成果の正確さ、外からみた場合の寸法、形、大きさ、見栄えなど
⑤安全性	技術によって得られる成果（もの、システム、サービス）および適用するプロセスの安全性（労働安全や運搬機材の安全性など労働安全衛生法上の安全性は含まない） ・構造：技術によって得られる成果の構造やシステムの安全性やその成果を利用する場合の安全性（例えば、交通安全や防災等に関するものも含む）。 ・施工段階：施工中の現場内および周辺での安全性やその管理のしやすさ
⑥施工性	施工における適用条件、難易度など ・現場条件：当該技術が適用可能な現場条件（自然条件以外） ・適用範囲：当該技術が適用可能な適用範囲（制約条件） ・自然条件：当該技術が適用可能な自然条件（地形、地質、気象など） ・施工管理：当該技術の施工における管理項目や管理頻度など ・難易度：当該技術の施工にあたっての難しさの程度
⑦周辺環境への影響（環境）	技術によって得られる成果が、社会に与える影響 ・社会環境：当該技術の適用時に発生する地域や社会への影響
⑧その他	・技術特性に応じた任意の技術的事項

14-2. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」

評価項目	申請者記入欄
<ul style="list-style-type: none"> ・中項目は、技術に応じて変更することは可能ですが、申請・相談窓口にご相談下さい。 ・小項目には、中項目の詳細項目を記入して下さい。 ・小項目は、必要に応じて記入欄を追加して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（現行基準値～従来技術との比較）については、内容を簡潔に記入して下さい。 ・当該技術において該当しない場合、「-」を記入して下さい。

小項目を追加する場合は、追加したい中項目を選択し、「行追加」ボタンをクリック

評価項目			申請者記入欄								
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較（結果）	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較（結果）	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号（根拠データ等）	⑧基準値等の引用もと	備考
品質	耐久性（物性）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力 ①	基準値等を満たしているか入力 ②	確認結果を入力 ③	従来技術との比較結果を入力 ④	数値等が得られた条件を入力 ⑤	実証方法と確認した機関の両方を入力 ⑥	根拠が記載された添付資料名・番号を入力 ⑦	現行基準値等の引用元を入力 ⑧	補足する内容を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	耐久性（耐力）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	材料	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	施工	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	完成物	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力

・①を記入した場合、以降②③④⑤⑥⑦⑧は必須となります。
 ・標準的な基準や自社基準等無く①が記入できずに「-」となった場合は、②⑧も「-」となります。
 ・①②が「-」であっても③を記入した場合、以降の④⑤⑥⑦は必須となります。
 ・小項目、①、③の記載内容は整合させてください。

※「評価項目」、「①現行基準値等」、「③申請技術について実証により確認した数値等」、「④従来技術との比較（結果）」は、NETISで公開されます。

申請者記入欄							
①現行基準値等	②現行基準との比較（結果）	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較（結果）	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号（根拠データ等）	⑧基準値等の引用もと
<ul style="list-style-type: none"> ・申請技術に対応した現行基準値等を記入して下さい。 ・場合により、自社設定値、製造基準値、品質管理値等を記入して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①現行基準値等」が記入されている場合のみ記入して下さい。 ・「申請技術について実証により確認した数値等」を「現行基準値等」と比較した結果を記入して下さい。 例) 「現行基準に適合」、「現行基準に比べて20%向上」 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目毎に申請技術の数値等と内容について実証により確認した要点を記入して下さい。 ・数値等の記入に際しては、活用した際の試行調査の基礎資料となるため、一般的な測定方法で確認できるなどの配慮を行うこと。 例) 各杭ごとに鉛直交番載荷試験を行い、杭の鉛直方向支持力が全て800kN/m²以上であることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想定している従来技術の数値等との比較した結果を記入して下さい。 ・同等、向上等の比較および理由を明記して下さい。 ・比較のポイントの内容と整合させてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「③申請技術について実証により確認した数値等」を採取したときの条件を記入して下さい。 例) 試験施工において、最大施工深さ： Φ267.4→34.7m、 Φ355.6→41.0mを実施した結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・「③申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名を記入して下さい。(公共試験機関、自社) 例) 試験施工・載荷試験 (H13.4月～H16.4月)、性能評価：(財)日本建設センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・「③申請技術について実証により確認した数値等」の根拠となる添付資料の資料番号とその資料名およびページ番号を記入して下さい。 ・ここに記載した資料は、「24.添付資料」に記入してください。 例) 資料番号3：〇〇工法設計要領PO～PO 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①現行基準値等」が掲載されている引用元と、その数値が掲載されている箇所を具体的(発行年、発行元、項目、頁数等)に記入して下さい。 例) 道路橋示方書・同解説 [IV下部構造編] (H14.3) 日本道路協会 12.11.4 鋼管杭 注) 公表されているものを記入して下さい。

※ 「評価項目」、「①現行基準値等」、「③申請技術について実証により確認した数値等」、「④従来技術との比較（結果）」は、NETISで公開されます。

15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」

① その他、技術のアピールポイント等 (全角127文字)

② 新技術のコストタイプ

損益分岐点型：A

並行型：B

発散型：C

サイクルコスト型：D

サイクルコスト (円/単位あたり)

新技術	1年	3年	5年	10年
従来技術	1年	3年	5年	10年

① 技術のアピールポイント

- 従来技術で対応しきれなかった、あるいは課題があった等に対し、本技術の有効性を箇条書きで簡潔に記述して下さい (全角127文字)。
- 申請技術の技術特性に応じた任意の技術的事項を2項目挙げることができます。(ただし、評価項目(経済性～環境)以外の技術的事項とし、その妥当性については、申請窓口に確認を受けて下さい。)

② 新技術のコストタイプ

- 新技術のコストタイプ別表示(コスト別グラフ)については、必須入力ですので、コストタイプが分からない場合は、申請・相談窓口に確認して下さい。
- トータルコストが向上する場合は、根拠に詳細を記述して下さい。

- 損益分岐点型：A
- ①A(I)型：従来技術と比べて、導入時にコストがかかるが、施工量が増えれば単価が安くなるパターン
 - ②A(II)型：従来技術と比べて、導入時にコストはかからないが、施工量が増えれば単価が高くなるパターン
- 平行型：B
- ①B(+)型：従来技術と比べて、導入時から単価差(新技術の方が安い)があり、施工量に関わらず、その差に変化がないパターン
 - ②B(-)型：従来技術と比べて、導入時から単価差(新技術の方が高い)があり、施工量に関わらず、その差に変化がないパターン
- 発散型：C
- ①C(+)型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して、単価差が増す(新技術の方が安い)パターン
 - ②C(-)型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して、単価差が増す(新技術の方が高い)パターン
- ライフサイクルコスト型：D
- ①D(I)型：基本的には損益分岐点型：Aと同様であるが初期投資コストと経年との関係(期間に応じて新技術のコストが一定)でサイクルコストとしての特性を表すパターン
 - ②D(II)型：基本的には損益分岐点型：Aと同様であるが初期投資コストと経年との関係(期間に応じて新技術のコストが増加)でサイクルコストとしての特性を表すパターン
- サイクルコスト型(D)を選択した場合は、新技術と従来技術の1年後、3年後、5年後、10年後における単位当たりのコストを入力して下さい。

18. 「施工方法」

1. 「技術名称」「新編」「技術開発年」「記入年月日」「掲載の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」「開発目標」 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用条件」 11. 「適用範囲」 11-2. 「適用される基準」 12. 「留意事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16. 「施工手順」 17. 「費用内訳表」「歩掛」 18. 「施工方法」 19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実験等実施状況」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他がダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」 27. 「比較表」 28. 「震災NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

① 施工方法 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工方法写真

ファイルを選択

選択済み写真

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

施工方法写真タイトル

施工方法

文章

施工管理基準がある場合、品質出来形管理基準が分かる資料を提出して下さい。

写真

写真データは1枚で、形式はJPG又はGIFとし、1枚あたりのファイルの大きさは2MB以内、画像の横は最大600pixel以内、縦は1000pixel以内にしてください。

写真タイトルは必ず記入して下さい。（全角25文字以内）。

施工手順が分かるように、イラスト等（実際の施工写真でも構いません）を使用して、視覚的に表現して下さい。

施工方法表

見出し 列数 0 行数 0

施工方法表

表

上記文章を補足する一覧表が作成できます。（内容は、申請する新技術の施工手順フロー等、施工方法に関する説明であれば任意とします。）

20列×20行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

①施工方法

- ・施工管理基準がある場合、品質出来形管理基準が分かる資料を提出して下さい。
- ・全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

<書き方のポイント>

- ①
- ②
- ③

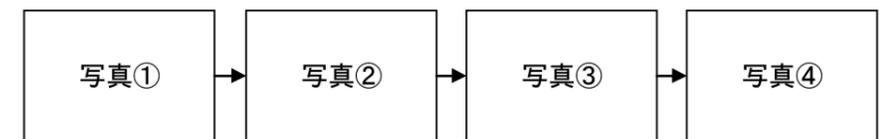
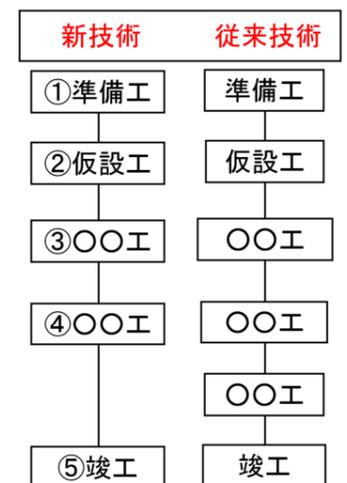
のように、工程を順序よく記述して頂くと見た人は分かり易いと思います。

- ・他に、写真やフロー図を貼り付けたりするとより分かり易くなります。フロー図の場合、従来技術のフロー図と対比させて表現するとさらにその違いがよく分かります。
- ・また、実際の工程だけでなく、前後に必要な準備やフォロー等の記述もあれば、より分かり易く、かつ技術として成熟していることがよく分かります。なお、記述・フロー・写真の名称は統一して下さい。

例

- ①準備工
××を均一に…して…。
- ②仮設工
綱矢板により…する。
- ③〇〇工
…を設置し…する。
- ④……
- ⑤……

新技術では〇〇工が省略出来る。
また施工規模によっては〇〇も簡易な施工で済み、工期短縮がはかれる。



②施工方法写真

- ・写真データは 1 枚で、形式は JPG 又は GIF とし、1 枚あたりのファイルの大きさは 2MB 以内、画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にしてください。
- ・写真タイトルは必ず記入して下さい。（全角 25 文字以内）。
- ・施工手順が分かるように、イラスト等（実際の施工写真でも構いません）を使用して、視覚的に表現して下さい。

③施工方法表

- ・上記文章を補足する一覧表が作成できます。（内容は、申請する新技術の施工手順フロー等、施工方法に関する説明であれば任意とします。）
- ・20 列×20 行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

19. 「今後の課題とその対応計画」

1. 「技術名称」 「副題」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」 「開発日数」	4. 「開発体制」 「開発会社」 「問合せ先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」 「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」 「効果表」		
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工率）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」			
15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」 「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実績等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」				

① 今後の課題とその対応計画 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①今後の課題

誤字チェック 凡例： **赤**チェック対象文字、**青**修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②対応計画

誤字チェック 凡例： **赤**チェック対象文字、**青**修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

コメント欄 （確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

ご質問にお答えします！

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

①今後の課題とその対応計画

- ・ 申請する新技術について、今後取り組んでいく事項およびその方向性について、以下の点に対して箇条書きで記入して下さい。
 - ・ 全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
- ①今後の課題
- ②対応計画
- ・ 記載なしの場合は、「・特になし」と記載して下さい。

20. 「施工実績」

1. 「技術名称」 「新技術」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報の提供経路」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」 「開発目標」	4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」 「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」 「効果表」
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	
15. 「その他、技術のアドバンテージ等」 「新技術のコストタイプ」	16. 「施工実績」	17. 「費用内訳表」 「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、技術説明書等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」	

① 施工実績 実績件数（国土交通省）

※旧建設省、旧運輸省含む

国土交通省 0 件

国土交通省における施工実績（20件まで）

※現在入力している新技術に関するものは入力しないでください。

実績追加 ②

工事名	事業種類	地方整備局名	事務所	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
-----	------	--------	-----	------	------	------------	-------

実績件数（国土交通省以外）

※旧建設省、旧運輸省を除く

① その他公共機関 0 件

① 民間 0 件

国土交通省以外における施工実績（20件まで）

※現在入力している新技術に関するものは入力しないでください。

② 実績追加

工事名	発注者（種別）	発注者（事務所名等）	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
-----	---------	------------	------	------	------------	-------

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

コメント欄

コメントを入力してください

ファイルの選択 | ファイルが選択されていません

ご質問にお答えします！

① 実績追加

工事名

事業種類

地方整備局名

事務所

CORINS登録番号

施工開始

施工終了

追加 閉じる

② 実績追加

工事名

発注者（種別）

発注者（事務所名等）

CORINS登録番号

施工開始

施工終了

追加 閉じる

① 実績件数

- 申請する新技術の実績件数を記入して下さい。
 - 実績件数がない場合には、0件と記入して下さい。
 - 事業種類の定義は、以下のとおりです。
 - 技術活用パイロット：新技術を試行し、積算資料及び施工資料の整備等に関する事項を調査するために行う事業
 - 特定技術活用パイロット：技術活用パイロットのうち建設技術協議会において特定した技術を対象として統一かつ重点的に行うもの
 - 試験フィールド：新技術を試行し、現場における適用性等、活用の効果等を検証するために行う事業
 - リサイクルモデル事業：パイロット事業において、技術により発生抑制や再生利用を行う事業
 - 一般工事：一般の直轄工事
 - 特定試験フィールド：試験フィールドのうち建設技術協議会において特定された、事業執行上のニーズが特に高い技術を対象として、検証を行う事業
 - その他：直轄以外の工事
- 注1）実績件数は、発注者が国土交通省（旧建設省、旧運輸省）、その他公共機関、民間であるか否かで判断します。
- 注2）施工期間は、元請け工事の施工期間を記入して下さい。
- 注3）CORINS登録番号はできる限り確認して記入して下さい。また、業務実績の場合には、番号の後ろに（TECRIS）と記入して下さい。

② 実績追加

- 実績追加のボタンを押して、必要事項（工事名、事業種類、地整名、事務所名、CORINS登録番号、施工期間）を記入して下さい。
 - 施工期間は、工種の施工期間ではなく、全体工期（その工事自体の契約期間）を記入して下さい。
- 注1）実績件数に記入した施工実績を全て「施工実績の内訳」に記入して下さい（必ず実績件数と施工実績との整合性を取って下さい）。なお、件数が多く20件を越える場合は、最新の実績（もしくは代表的な実績）から順に記入するようにして下さい。

21. 「特許・実用新案」

1. 「技術名称」「新案」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」「開発日数」 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」「効果表」
 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用条件」 11. 「適用範囲」 11-2. 「適用される基準」 12. 「留意事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16. 「施工手順」 17. 「費用内訳表」「参照」 18. 「施工方法」 19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実績等実施状況」 24. 「添付資料」
 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、技術指針等）」 27. 「比較表」 28. 「優良NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

①

特許・実用新案

特許情報1		特許情報2	
特許番号	<input type="text"/>	特許番号	<input type="text"/>
特許	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 出願中	特許	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 出願中
特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し	特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し	特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許権者	<input type="text"/>	特許権者	<input type="text"/>
実施権者	<input type="text"/>	実施権者	<input type="text"/>
特許料等	<input type="text"/>	特許料等	<input type="text"/>
実施形態	<input type="text"/>	実施形態	<input type="text"/>
問合せ先	<input type="text"/>	問合せ先	<input type="text"/>

特許情報3		特許情報4	
特許番号	<input type="text"/>	特許番号	<input type="text"/>
特許	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 出願中	特許	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 出願中
特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し	特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し	特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許権者	<input type="text"/>	特許権者	<input type="text"/>
実施権者	<input type="text"/>	実施権者	<input type="text"/>
特許料等	<input type="text"/>	特許料等	<input type="text"/>
実施形態	<input type="text"/>	実施形態	<input type="text"/>
問合せ先	<input type="text"/>	問合せ先	<input type="text"/>

特許情報5	
特許番号	<input type="text"/>
特許	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 出願中
特許-通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許-専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
特許権者	<input type="text"/>
実施権者	<input type="text"/>
特許料等	<input type="text"/>
実施形態	<input type="text"/>
問合せ先	<input type="text"/>

実用新案	<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 出願中 <input type="radio"/> 出願予定 <input type="radio"/> 無し
有りの場合 ：特許番号	<input type="text"/>
実施新案- 通常実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
実施新案- 専用実施権	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
備考	<input type="text"/>

全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

コメント欄

コメントを入力してください

ファイルの選択 | ファイルが選択されていません

特許・実用新案欄
 特許・実用新案の有無、出願状況について、現時点（申請書類の提出時）におけるものを選択して下さい。

①特許・実用新案

・特許・実用新案の有無、出願状況について、現時点（申請書類の提出時）におけるものを選択して下さい。

22. 「第三者評価・表彰等」

1.「技術名称」「新編」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2.「分類・区分」 3.「キーワード」「開発日標」 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5.「概要」 6.「概要写真」「概要表」 7.「新規性及び期待される効果」 8.「効果写真」「効果表」

9.「技術概要（アブストラクト）」 10.「適用条件」 11.「適用範囲」 11-2.「適用される基準」 12.「留意事項」 13.「従来技術との比較（経済性・工配）」 14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」

15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16.「施工単価」 17.「費用内訳表」「歩掛」 18.「施工方法」 19.「今後の課題と対応計画」 20.「施工実績」 21.「特許・実用新案」 22.「第三者評価・表彰等」 23.「実験等実施状況」 24.「添付資料」

25.「参考文献」 26.「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」 27.「比較表」 28.「震災NETIS」 29.「維持管理NETIS」

① 第三者評価・表彰等

建設技術審査証明
建設技術番号、評価年月日、評価機関いずれかを入力すると残りが必須となります

建設技術番号

評価年月日

評価機関

URL

その他の制度等による証明1

制度の名称

番号

証明年月日

証明機関名称

証明範囲

URL

建設技術評価
建設技術評価番号、評価年月日いずれかを入力すると他方が必須となります

建設技術評価番号

評価年月日

URL

その他の制度等による証明2

制度の名称

番号

証明年月日

証明機関名称

証明範囲

URL

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

項目追加

証明項目	試験・調査内容	結果	編集/削除

▼

第三者評価・表彰等

国土交通省及び建設技術審査証明協議会が実施している建設技術評価（建設技術研究開発助成制度）、建設技術審査証明事業、民間開発建設技術の技術審査・証明事業、港湾関連民間技術の確認審査・評価事業において、評価・証明された技術について、該当する箇所を記入して下さい。

建設技術審査証明とは、建設技術審査証明協議会会員の国土交通省所管である公益法人による技術審査および証明を示します。但し、過去に建設技術証明を取得した技術であっても、有効期間が過ぎているものは、当該の証明が有効とはなりません。

建設技術評価とは、昭和53年建設省告示第976号に基づいて、国土交通省（旧建設省）が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が評価を与えた技術を示します。

港湾関連民間技術の確認審査・評価事業とは、平成12年10月から（財）沿岸技術研究センターの自主事業として開始されたものです。この事業で評価を与えた技術を示します。

その他の制度等による証明とは、他省庁で行っている制度を示します。

第三者評価・表彰等を取得している場合は、追加ボタンを押して証明項目、試験調査内容、結果を記入して下さい。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

ご質問にお答えします！

① 第三者評価・表彰等

- 国土交通省及び建設技術審査証明協議会が実施している建設技術評価（建設技術研究開発助成制度）、建設技術審査証明事業、民間開発建設技術の技術審査・証明事業、港湾関連民間技術の確認審査・評価事業において、評価・証明された技術について、該当する箇所を記入して下さい。
- 建設技術審査証明とは、建設技術審査証明協議会会員の国土交通省所管である公益法人による技術審査および証明を示します。
- 但し、過去に建設技術証明を取得した技術であっても、有効期間が過ぎているものは、当該の証明が有効とはなりません。
- 建設技術評価とは、昭和53年建設省告示第976号に基づいて、国土交通省（旧建設省）が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が評価を与えた技術を示します。
- 港湾関連民間技術の確認審査・評価事業とは、平成12年10月から（財）沿岸技術研究センターの自主事業として開始されたものです。この事業で評価を与えた技術を示します。
- その他の制度等による証明とは、他省庁で行っている制度を示します。
- 第三者評価・表彰等を取得している場合は、追加ボタンを押して証明項目、試験調査内容、結果を記入して下さい。

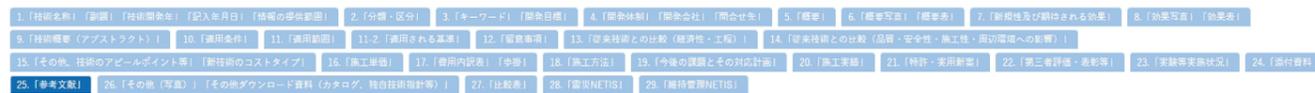
24. 「添付資料」

①

①添付資料

- ・申請する新技術について、技術の成立性、適用性等を確認するための実験資料、積算資料等があれば、その資料を示す名称を記入して下さい。
 - ・パンフレット、学会等での発表論文（コピー可）等は、添付資料に含みます。
 - ・「14-2.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」で記載する「⑦添付資料名・番号（根拠データ等）」の内容との整合を取るようして下さい。
 - ・ここに記入する資料は、NETIS 閲覧者の要請に応じ、NETIS 申請者より提供できるものとしします。
 - ・社外秘等の提供できない資料については、記入の必要はありません。
 - ・ファイルは PDF 形式のみとし、登録した添付資料の合計が 50MB までとして下さい。（ファイル数は最大 30 まで）
- 注）提出して頂いた資料は、ご返却しませんのでご了承下さい。

25. 「参考文献」



① 参考文献 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

コメント欄 (編者側のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

誤字チェック 凡例：赤チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

参考文献
添付資料以外のもので、申請する新技術において参考にした文献を記入して下さい。

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

ご質問にお答えします！

①参考文献

- ・添付資料以外のもので、申請する新技術において参考にした文献を記入して下さい。
- ・全角 1000 文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発日標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用期間」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工期）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実績等実績状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」	「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」

① その他 ※写真や図などは、GIFあるいはJPEG形式の画像ファイルにしてください。
※画像の横幅は最大でも横600ピクセルにおさまるようにしてください。

その他写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真1
タイトル

その他写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真2
タイトル

その他写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真3
タイトル

その他（写真及びタイトル）

申請する新技術が良く分かる写真（原則カラー）を使用して下さい。
選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
写真タイトルを必ず記入して下さい（全角25文字以内）。
写真（図）などのファイル形式は、JPEGあるいはGIF形式を使用して下さい。
画像ファイルの大きさは1536KB以内にして下さい。
画像の横は最大600pixel以内、縦は1000pixel以内にして下さい（縦A4サイズで出力できる）。
図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等)

その他資料①

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイル…ていません

※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでのものとしてください。

タイトル

その他資料②

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイル…ていません

※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでのものとしてください。

タイトル

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

ご質問にお答えします！

コメントを入力してください

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

① その他（写真及びタイトル）

- ・申請する新技術が良く分かる写真（原則カラー）を使用して下さい。
- ・選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
- ・写真タイトルを必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。
- ・写真（図）などのファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
- ・画像ファイルの大きさは 2M 以内にして下さい。
- ・画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000pixel 以内にして下さい（縦 A4 サイズで出力できる）。
- ・図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。
- ・その他写真、その他資料（カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等）はそれぞれ 3 つまで。

27. 「比較表」

1. 「技術名称」「新編」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」「開発日付」 4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5. 「概要」 6. 「概要写真」「概要表」 7. 「新規性及び期待される効果」 8. 「効果写真」「効果表」 9. 「技術概要（アブストラクト）」 10. 「適用条件」 11. 「適用範囲」 11-2. 「適用される基準」 12. 「留意事項」 13. 「従来技術との比較（経済性・工務）」 14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16. 「施工手順」 17. 「費用内訳表」「歩掛」 18. 「施工方法」 19. 「今後の課題とその対応計画」 20. 「施工実績」 21. 「特許・実用新案」 22. 「第三者評価・表彰等」 23. 「実績等実施状況」 24. 「添付資料」 25. 「参考文献」 26. 「その他（写真）」 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」 27. 「比較表」 28. 「震災NETIS」 29. 「維持管理NETIS」

① 類似技術
類似技術の追加 類似技術のリセット

NETIS番号	技術名称	比較する従来技術
	新技術	従来技術
	工法概要	②
	概略図	③ ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または [ファイルの選択] ファイルが選択されていません 登録済み写真名: ※画像サイズは200px以内のものとしてください
	経済性	
	評価	-
	工務・工期	
	評価	-
	品質	④
	評価	-
	現場条件	⑤
	設計条件	⑥
	安全性	⑦
	評価	-
	施工性	⑧
	評価	-
	周辺環境への影響	⑨
	評価	-
	自由項目	⑩
	評価	-
	自由項目	⑪
	評価	-
	NETIS番号	-
	備考	⑫
	総合評価	⑬

コメント欄 (確認者のコメント(赤)、申請者のコメント(青))

ご質問にお答えします！

コメントを入力してください

[ファイルの選択] ファイルが選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは200px以内のものとしてください

⑫ : 入力不要 (他データから転記される)
※入力データを反映させるためには一時保存が必要

①類似技術の追加	<ul style="list-style-type: none"> 類似技術の追加：NETIS 上にある類似の技術の NETIS 登録番号を入力することで、登録情報を基に必要なデータが入力されます。 NETIS 番号は、情報種別記号（-A、-VE 等）を除く形で入力してください。（例：KT-123546） NETIS に載っていない技術は追加できません。 類似技術のリセット：追加した類似技術のリセットされます。
②工法概要	<ul style="list-style-type: none"> アブストラクト程度の内容で記述して下さい。
③概要図	<ul style="list-style-type: none"> 技術の概要が確認でき、視覚的に特徴がつかみやすい写真や画、またはフローなどを入れて下さい。類似技術で資料の無い場合は、空白で構いません。
④品質	<ul style="list-style-type: none"> 「14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」で記述した内容に合わせて下さい。 また技術によって適用となる条件が違う場合は、同条件での適用の可否と、別条件での場合を2段書きにさせていただけると分かり易いと思います。
⑤現場条件	
⑥設計条件	
⑦安全性	
⑧施工性	
⑨周辺環境への影響	
⑩自由項目	
⑪自由項目	
⑫備考	<ul style="list-style-type: none"> 特筆すべきことがある場合などに、記入して下さい。
⑬総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 従来技術を基準とし新技術、類似技術を同一の視点で比較して下さい。 新技術、類似技術と従来技術を比較した結果を、著しく向上：◎、向上：○、同等：△、低下：×で表現して下さい。

※「比較表」は一般の NETIS では公開されません。

28. 「震災 NETIS」

	<p>震災 NETIS</p>	<p>・新技術活用システム（NETIS）に登録された技術を対象として、震災復旧・復興に資する技術を NETIS 申請者より募り、広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援するサイトです。</p>
<p>① 震災 NETIS 項目を登録する。</p>	<p>① 震災 NETIS 項目を登録</p>	<p>・「<input type="checkbox"/>震災 NETIS 項目を登録する。」にチェックを入れると各項目が入力ができるようになります。</p>
<p>② ジャンル</p>	<p>② ジャンル</p>	<p>・該当する工種にチェックを入れてください。</p>
<p>③ 震災対応上の特徴</p>	<p>③ 震災対応上の特徴</p>	<p>・震災に対応する場合の特徴・対応の方法等を記入してください。</p>
<p>④ 関連 URL</p>	<p>④ 関連 URL</p>	<p>・関連する URL を記入します。</p>
<p>⑤ 災害対応関連工事・業務における活用実績</p>	<p>⑤ 災害対応関連工事・業務における活用実績</p>	<p>・震災対応した施工実績数と詳細を 5 件まで記入してください。</p>

29. 「維持管理 NETIS」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2.「分類・区分」 3.「キーワード」「開発日標」 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5.「概要」 6.「概要写真」「概要表」 7.「新規性及び期待される効果」 8.「効果写真」「効果表」

9.「技術概要（アブストラクト）」 10.「適用条件」 11.「適用範囲」 11-2.「適用される基準」 12.「留意事項」 13.「従来技術との比較（経済性・工期）」 14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」

15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16.「施工単価」 17.「費用内訳表」「歩掛」 18.「施工方法」 19.「今後の課題とその対応計画」 20.「施工実績」 21.「特許・実用新案」 22.「第三者評価・表彰等」 23.「実績等実態状況」 24.「添付資料」

25.「参考文献」 26.「その他（写真）」 27.「その他ダウンロード資料（カタログ、技術資料等）」 28.「防災NETIS」 29.「維持管理NETIS」

① 維持管理NETIS項目を登録する。

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

② ジャンル

- トンネル内附属物 道路 港湾 空港 鉄道 ダム
- トンネル 道路 鉄道
- 橋梁 道路 鉄道
- 舗装 道路
- 道路附属物 道路
- 土工 道路 鉄道
- 係留施設外郭施設 港湾
- 港交通施設
- 滑走路等舗装構造物 空港

③ 点検等上の特徴

全角150文字以内。

誤字チェック 凡例： 黄色対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ 点検等対象の材質

全角150文字以内。

誤字チェック 凡例： 黄色対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

⑤ 点検等の項目

全角150文字以内。

誤字チェック 凡例： 黄色対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

新技術の活用により期待される効果

⑥

全角150文字以内。

誤字チェック 凡例： 黄色対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

⑦ 関連URL

公募

点検関連工事・業務等における活用実績

⑧ 活用工事・業務件数 件

※画像サイズ：600ピクセル（自動的にリサイズされます）。

実績1

工期開始

工期終了

点検等名

工事・業務等名

発注者

写真

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名：
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

維持管理 NETIS	・新技術活用システム（NETIS）に登録された技術を対象として、点検等に資する技術を NETIS 申請者より募り、広く情報提供することで、点検等の現場における活用を支援するサイトです。
①維持管理 NETIS 項目を登録	・「 <input type="checkbox"/> 維持管理 NETIS 項目を登録する。」にチェックを入れると各項目が入力ができるようになります。
②ジャンル	・該当する工種にチェックを入れてください。
③点検等上の特徴	・維持管理等に対応する場合の特徴・対応の方法等を記入してください。
④点検等対象の材質	・維持管理等に対応する材質を記入してください。
⑤点検等の項目	・維持管理等の項目を記入してください。
⑥新技術の活用により期待される効果	・申請技術の活用により維持管理等について期待される効果を記入してください。
⑦関連 URL	・関連する URL を記入します。
⑧災害対応関連工事・業務における活用実績	・震災対応した施工実績数と詳細、写真を 5 件まで記入してください。

(3) NETIS 掲載情報の更新・変更時申請書（様式 I-15）

- 申請情報の追加や訂正等を行う場合に使用する書類です。

様式 I-15

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 掲載情報の変更・更新申請書

令和 年 月 日

国土交通省
〇〇地方整備局長 / 北海道開発局長
〇 〇 殿

会社名 新技術株式会社 法人印
代表者氏名 評価 活用 公印
所在地 東京都千代田区〇〇
電話 03-〇〇〇〇-××××

NETIS 掲載情報の変更・更新について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称 : NETIS 工法
(商標名) : -
NETIS 登録番号 : ××-〇〇△△△△

2. 変更・更新内容 : 〇〇の△を◎に変更した

3. 担当窓口 : 氏名 〇 〇
会社名 新技術株式会社
所属 〇部〇課
所在地 東京都千代田区〇〇
電話 03-〇〇〇〇-××××

4. 添付資料 : 〇〇

・ 申請書を提出する年月日を記入して下さい。ただし、各地方整備局等によって異なる場合があるため、申請書類を提出する窓口にご確認下さい。

・ 既登録技術を登録した地方整備局等の名称と、変更・更新申請時における局長名を記入して下さい。

・ 法人印、公印は、所定の箇所に必ず押印して下さい。
・ 複数の会社によって開発された技術の場合は、その内容に対して責任を担う「会社名」及び「代表者名」を記入して下さい。

・ 技術名称及び NETIS 登録番号は、現在 NETIS に登録しているものと同一のものとして下さい。
・ 商標名の有無を確認し、商標名がある場合は記載して下さい。ない場合は「-」として下さい。

・ 申請情報のどの部分をどのように変更・更新したかを簡潔に記入して下さい。

・ 担当窓口は、質問、追加資料の要請などへの対応調整等の窓口となる担当者を記入して下さい。
・ 申請者が複数の場合は、主たる担当窓口を記入して下さい。

・ 添付する資料の名称を記入して下さい。
・ 添付資料には初めのページに整理番号をつけて下さい。

(4) NETIS 掲載情報の技術改善時申請書（様式 I-16）

- NETIS（評価情報）に掲載されている技術の安全性・耐久性等の技術的事項について改善を行った場合に使用する書類です。
- 改善後の技術が改善前と比べて有意差のあることを示す根拠資料（技術概要説明資料（様式 2）、その他参考資料）を添えて提出して下さい。

様式 I-16

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 掲載情報の改善技術申請書

令和 年 月 日

国土交通省
〇〇地方整備局長 / 北海道開発局長
〇 〇 殿

会社名 新技術株式会社 法人印
代表者氏名 評価 活用 公印
所在地 東京都千代田区〇〇
電話 03-〇〇〇〇-××××

NETIS 掲載情報の改善技術について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称：NETIS工法
(商標名)：—
NETIS 登録番号(既登録)：××-〇〇△△△△

2. 改善内容：〇〇の△を◎に改善した

3. 担当窓口：氏名 〇 〇
会社名 新技術株式会社
所属 〇部〇課
所在地 東京都千代田区〇〇
電話 03-〇〇〇〇-××××

4. 添付資料：〇〇

・ 申請書を提出する年月日を記入して下さい。ただし、各地方整備局等によって異なる場合があるため、申請書類を提出する窓口にご確認下さい。

・ 登録した地方整備局等の名称と局長名を記入して下さい。

・ 法人印、公印は、所定の箇所に必ず押印して下さい。
・ 複数の会社によって開発された技術の場合は、その内容に対して責任を担う「会社名」及び「代表者名」を記入して下さい。

・ 技術名称の変更は原則として受け付けません。技術名称及び NETIS 登録番号は、現在 NETIS に登録されているものと同一のものとしてください。
・ 商標名の有無を確認し、商標名がある場合は記載して下さい。ない場合は「—」として下さい。

・ 改善後の技術が改善前と比べて有意差のあることが分かるように記入して下さい。

・ 担当窓口は、質問、追加資料の要請などへの対応調整等の窓口となる担当者を記入して下さい。
・ 申請者が複数の場合は、主たる担当窓口を記入して下さい。

・ 添付する資料の名称を記入して下さい。
・ 添付資料には初めのページに整理番号をつけて下さい。

4. 試行の申請

4.1 必要な申請書類及び提出先

新技術を活用する場合に必要な申請書類は、以下のとおりです。

	試行申請型		発注者指定型		施工者選定型		事後評価のみの申請
	発注者指定の場合	請負契約締結後提案の場合	—	選択肢提示型	総合評価落札方式における技術提案の場合	請負契約締結後提案の場合	
【様式 I-7】 試行申請書	◎ 書面：1部 〔申請・相談窓口〕	◎ 書面：1部 〔発注事務所〕	—	—	—	—	◎ 書面：1部 〔申請・相談窓口〕
【様式 I-8】 試行希望調書	◎ 書面：1部 〔申請・相談窓口〕	—	—	—	—	—	—
【様式 IV-2】 活用計画書	—	—	—	◎ オンライン 〔発注事務所〕	◎ オンライン 〔発注事務所〕	◎ オンライン 〔発注事務所〕	—
【その他参考資料】 (様式自由)	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔申請・相談窓口〕	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔発注事務所〕	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔発注事務所〕	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔発注事務所〕	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔発注事務所〕	○ 書面：1部 電子データ：1部 式 〔発注事務所〕	—

* ◎：必須 ○：必要に応じて —：不要

※施工者選定型で総合評価方式における技術提案を行う場合の提出書類及び提出先については入札説明書等の記載に従ってください。

◆試行申請書（様式 I-7）

試行申請書（様式 I-7）は、NETIS 申請者が NETIS 登録済みの新技術かつ事後評価未実施技術について、「試行申請型」のいずれかの申請を行なう場合及び施工者が試行調査現場照会技術を「試行申請型（請負契約締結後提案）」として活用する場合に使用する書類です。

◆試行希望調書（様式 I-8）

NETIS 申請者が試行申請型により NETIS 登録済みの新技術かつ事後評価未実施技術について、試行調査を実施する現場の希望を確認するための書類です。

◆活用計画書（様式 IV-2）

NETIS 登録済みの新技術について活用する場合は工事打合せ簿に新技術活用計画書を添えて発注者へ提出し、後活用するものです。

* 上記の様式は、NETIS のインターネットホームページから書式ファイル（様式 I-7：ワード形式）、（様式 I-8：Excel 形式）のダウンロードが可能です。

■ 試行調査現場照会技術について

《試行調査現場照会技術とは以下のとおりです》

NETIS 申請者により試行申請型で申請された技術のうち、事前審査で活用の実施が妥当と判断され、NETIS 申請者の活用条件の希望等を踏まえて、試行調査を実施する現場の照会をしている技術。

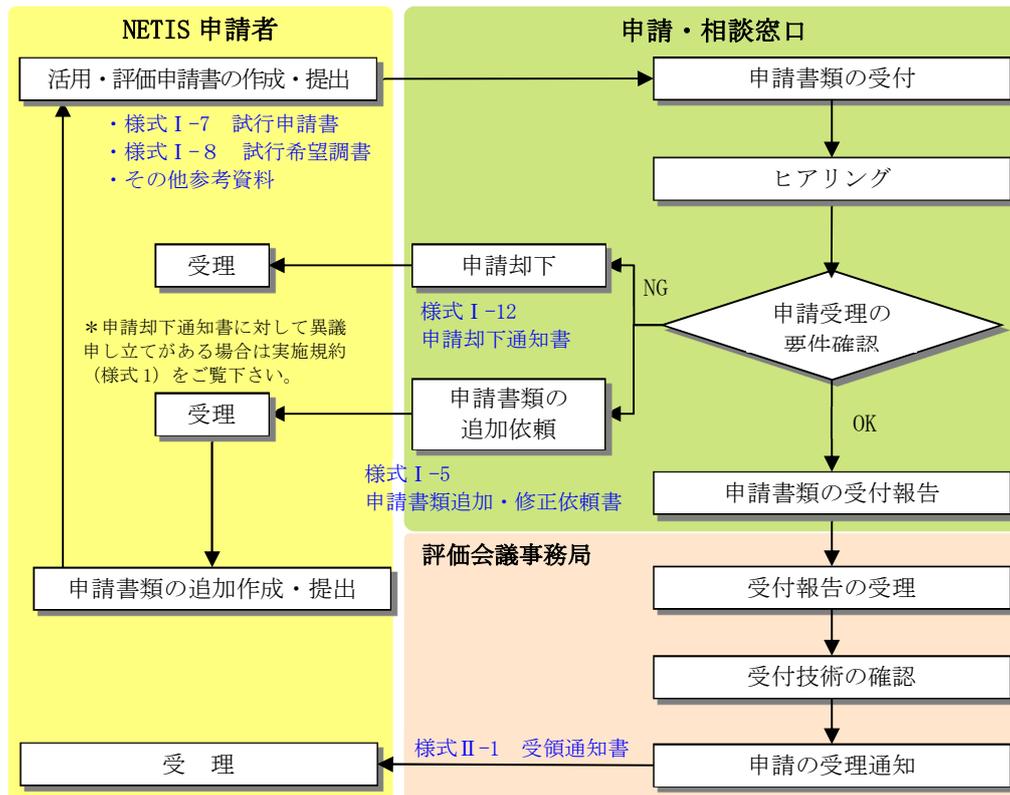
4.2 申請書類の記入方法

4.2.1 申請の流れ

(1) 試行申請型(発注者指定の場合)

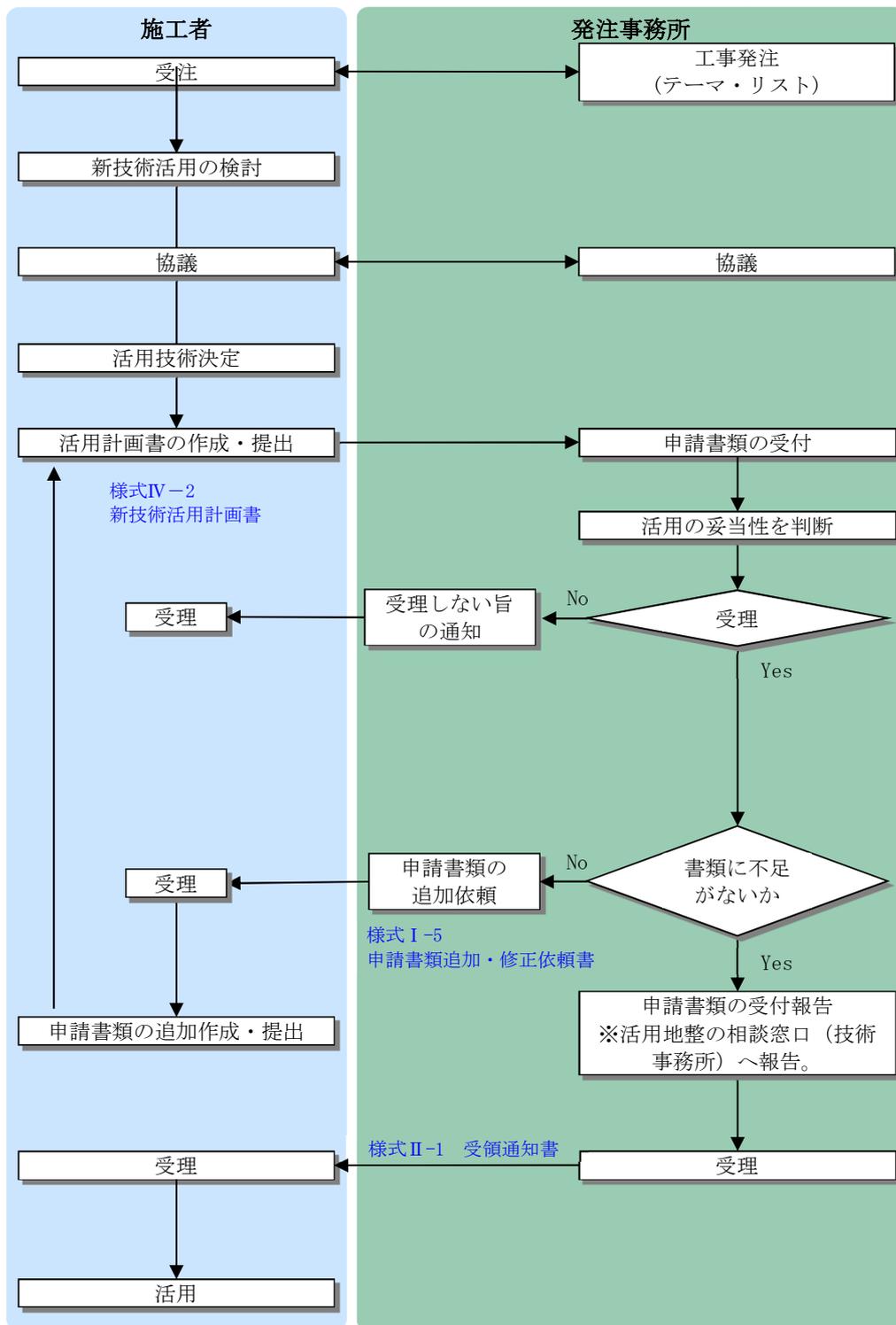
NETIS 申請者が新技術の活用を申請する場合の申請の流れは、以下のとおりです。なお、事前審査を実施しても試行調査を実施する現場が見つからない場合があります。

「様式 I-7 試行申請書」の記入方法は P55 を、「様式 I-8 試行希望調書」の記入方法は P54～55 をご覧ください。



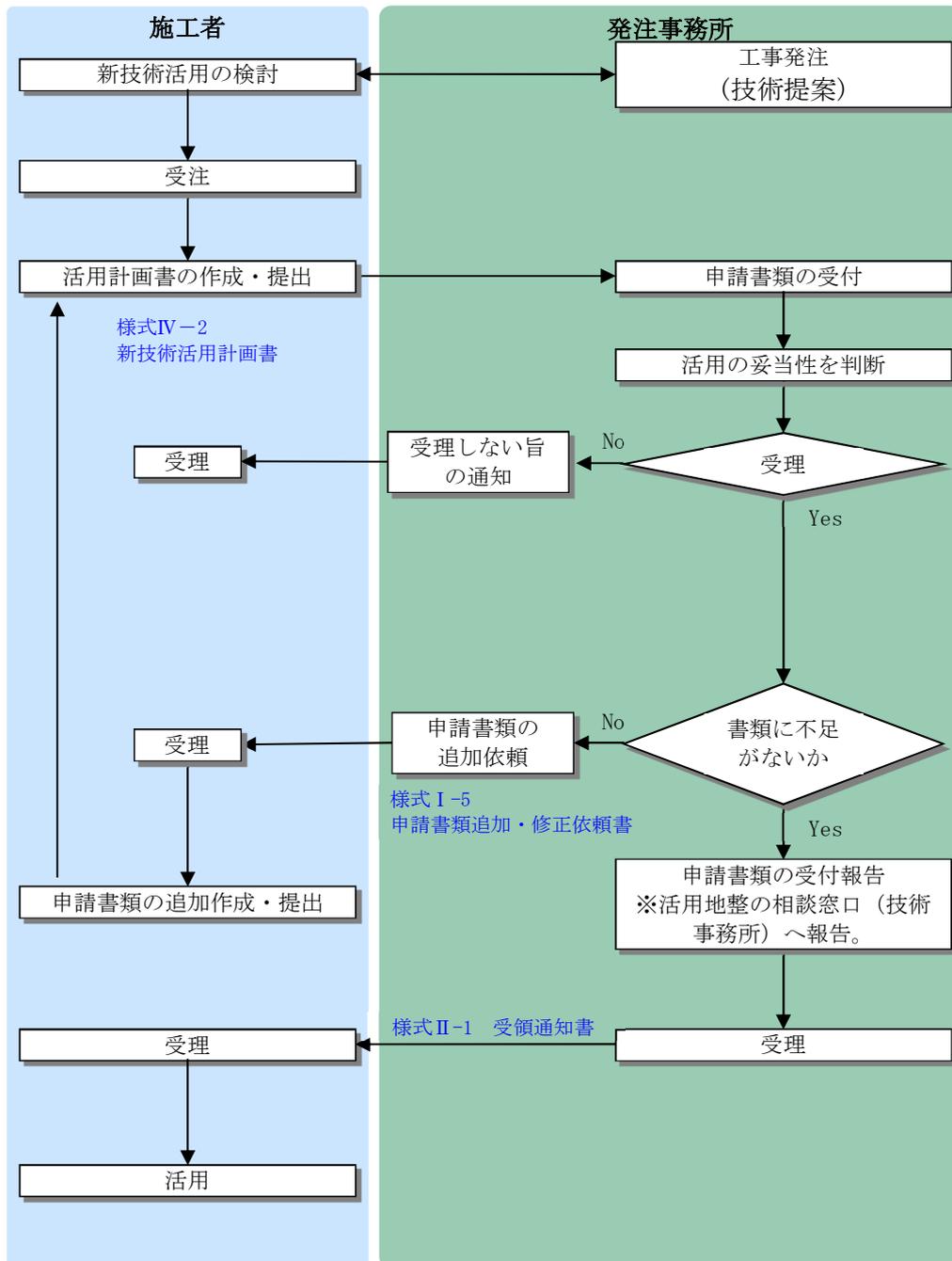
(4) 発注者指定型（選択肢提示型）

発注者がテーマ及び当該テーマに対して効果が期待できる複数の新技術を提示し、請負契約締結後に施工者が新技術を選択する場合の申請の流れは、以下のとおりです。



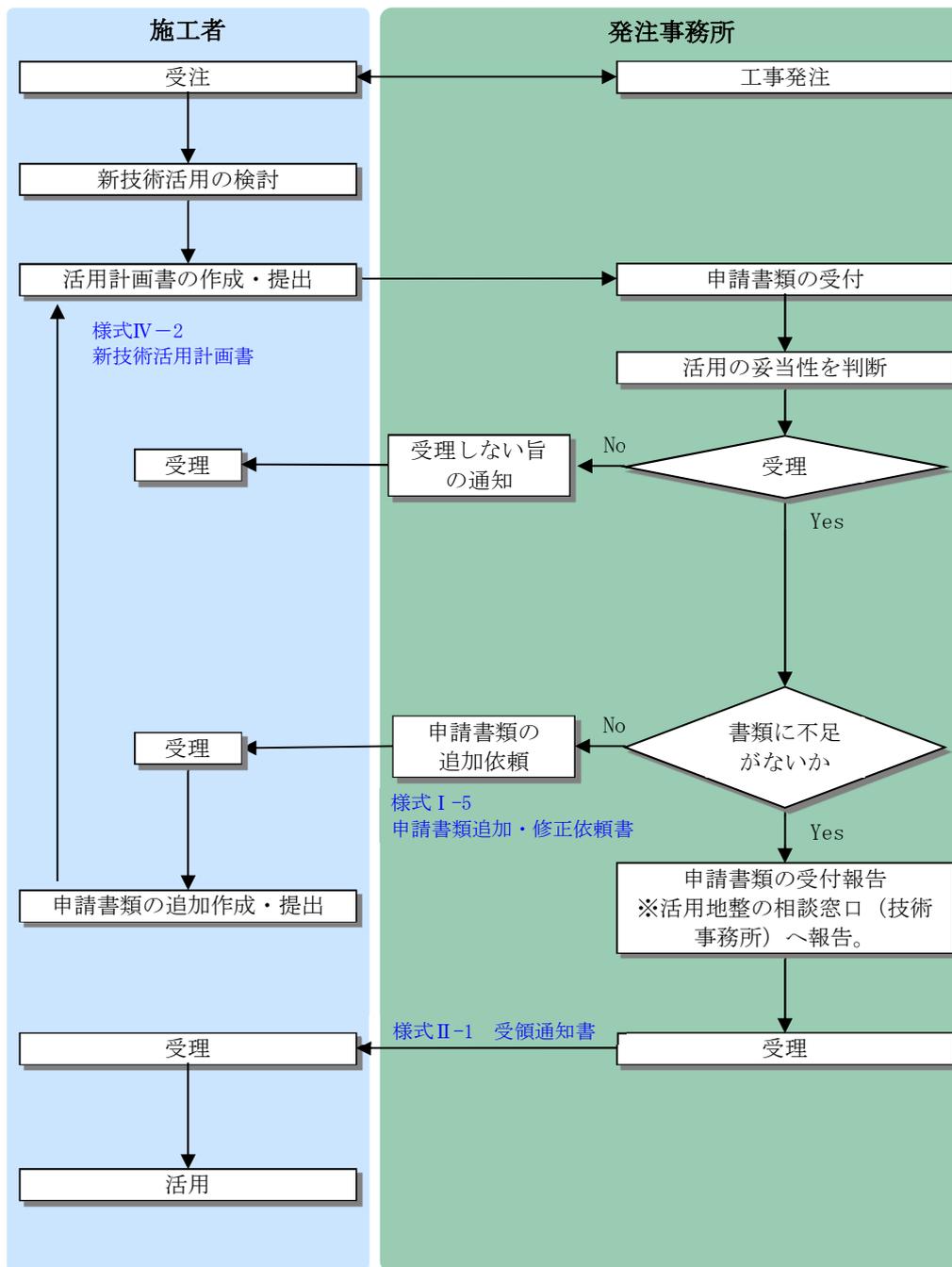
(5) 施工者選定型（総合評価落札方式における技術提案の場合）

総合評価落札方式における技術提案に基づき施工者が NETIS 登録技術の活用する場合の申請の流れは、以下のとおりです。



(6) 施工者選定型（請負契約締結後提案の場合）

施工者が新技術の活用を申請する場合の申請の流れは、以下のとおりです。



4.2.2 申請書類の記入方法

(1) 試行申請書（様式 I-7）

- ・ 試行申請型により施工者が活用する場合、NETIS申請者が試行申請する場合及び事後評価の申請を行う場合に使用する書類です。
- ・ 技術概要説明資料（様式 2）、その他参考資料（様式自由）を添えて提出して下さい。

様式 I-7

公共工事等における新技術活用システム
試行申請書

令和 年 月 日

国土交通省
〇〇地方整備局長 / 北海道開発局長
〇 〇 殿

会社名 新技術株式会社 法人印
 代表者氏名 評価 活用 公印
 所在地 東京都千代田区〇〇
 電話 03-〇〇〇〇-××××

〇〇地方整備局において NETIS 登録済みの新技術について、以下の内容に同意の上、下記のとおり申請します。

【NETIS における位置付け】
 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果及び申請情報に基づき当該技術の活用の実施が保証されるといった性格のものではありません。

【活用における費用負担について】
 活用に当たり標準積算額を超える費用が生じた場合は、試行調査にかかる費用として負担いたします。

【試行調査・活用効果調査における費用負担について】
 試行調査および活用効果調査については、調査にかかる費用を負担いたします。

記

①新技術名称 NETIS工法
 ②NETIS登録番号 ××-〇〇△△△△

③申請会社等
 郵便番号 100-〇〇〇〇
 住所 東京都千代田区〇〇
 会社名 新技術株式会社
 部署 〇部〇課
 実務担当者 〇 〇
 電話番号 03-〇〇〇〇-××××

E-Mail アドレス 〇〇〇〇@××××

- ・ 申請書を提出する年月日を記入して下さい。ただし、各地方整備局によって異なる場合があるため、申請書類を提出する窓口にご確認下さい。（施工者選定型による試行申請の場合は発注事務所を通じて窓口にご確認下さい。）
- ・ 登録した地方整備局等の名称と局長名を記入して下さい。
- ・ 法人印、公印は、所定の箇所に必ず押印してください。
 ・ 複数の会社によって開発された技術の場合は、その内容に対して責任を担う「会社名」及び「代表者名」を記入して下さい。
 ・ 施工者選定型で試行を申請する場合は請負者の「会社名」及び「代表者名」を記入して下さい。
- ・ 登録した地方整備局等の名称を記入して下さい。
- ・ 技術名称及び NETIS 登録番号は、現在 NETIS に登録されているものと同一のものとして下さい。
- ・ 申請会社等は、質問、追加資料の要請などへの対応調整等の窓口となる担当者を記入して下さい。
 ・ 申請者が複数の場合は、主たる申請会社を記入して下さい。

(2) 試行希望調書 (様式 I-8)

- ・ 試行申請型により試行調査を実施する現場の希望を確認するための書類です。
- ・ 様式 (I-7) 試行申請書に添えて提出してください。

様式 I-8

公共工事等における新技術活用システム
試行希望調書

技術名称	新技術名称を記入			
会社名	会社名を記入			
記入者氏名	(通常、実務担当者とする)	記入年月日	平成 18 年	月 日

1. 試行を希望する工事の内容、条件および範囲について伺います。	
(1) 主たる評価項目	様式2などに記載して頂いている技術の有用性のうち、試行において特に評価項目としたい内容について記入
(2) 直轄事業への適用分野 <small>(選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]</small>	<input type="checkbox"/> 河川 <input type="checkbox"/> ダム <input type="checkbox"/> 砂防 <input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 港湾 <input type="checkbox"/> 建築 <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> その他 上記で"その他"にチェックされた場合は、該当する「分野」を記入
(3) 工種・工事の内容	様式2に記載された"分類1"で工事内容が判断出来る場合は"分類1"を記入 判断が困難な(希望を反映出来ない)場合は、具体的な"工事内容"を記入
(4) 施工現場の条件	申請技術の適用範囲、有効性、評価項目などを考慮し、その条件を記入 ただし、条件の設定に際しては、様式-2の記載内容(適用条件等)と整合を図ること
(5) 試行規模の範囲	上限値: 貴社の費用負担、技術の施工能力、国交省発注における常識的な施工規模、などから勘案した施工数量の上限値 下限値: 試行調査において評価を行うのに妥当なデータを取得できる規模、コスト等を考慮した規模などから勘案した施工数量の下限値
(6) 対応可能地域(国交省管轄) <small>(選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]</small>	<input type="checkbox"/> 北海道開発局 <input type="checkbox"/> 東北地整 <input type="checkbox"/> 関東地整 <input type="checkbox"/> 北陸地整 <input type="checkbox"/> 中部地整 <input type="checkbox"/> 近畿地整 <input type="checkbox"/> 中国地整 <input type="checkbox"/> 四国地整 <input type="checkbox"/> 九州地整 その他(上記に該当しない範囲設定や、選択地域の内に対応出来ない場所)
(7) その他の条件	上記以外で試行に際しての特筆すべき条件を記入

2. 上記1. の工事において予想される不具合とその対応について伺います。(予想される不具合を全て記載)	
(1) 工事中において予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間中(施工中・調査中・試験中)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合により申請技術での施工が困難となった場合、申請技術以外での代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入
(2) 工事完了後に予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間後(施工後・調査後・試験後)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合に対処するために、申請技術以外で考えられる代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入

・ 新技術名称、会社名、記入者氏名、記入年月日を記入してください。
・ 会社名、記入者氏名については、質問、追加資料の要請などへの対応調整等の窓口となる担当者を記入して下さい。

・ (1)主たる評価項目には、経済性、工程、施工性など、試行においてその優位性を確認したい内容について記入してください。
・ (2)直轄工事への適用分野(3)工種・工事の内容には、様式2で記載された工種分類を記入してください。
・ (4)施工現場の条件には、適用範囲や現場条件、周辺環境などを記入してください。
・ (5)試行規模の範囲には、貴社の費用負担などから試行可能な数量の上限値、下限値を記入してください。
・ (6)対応可能地域には、営業、施工可能な地域を選択してください。

・ 工事において予想される不具合とその対応方法について簡潔に記入してください。(予想される不具合を全て記載)

3. 上記1(5)試行規模の範囲において、申請技術と従来技術による分割施工の可否について伺います。	
(1) 試行しようとする申請技術と従来技術等とは分割しての施工が可能か [下記ラジオボタンにより選択]	<input checked="" type="radio"/> 不可・困難・・・下記(2)にその理由を記入 <input type="radio"/> 可能・・・下記(2)に分割施工時の条件を記入
(2) 分割して施工する場合の条件等(または、分割施工出来ない理由)	分割することによる施工条件や追加して施工しなければならない作業などについて記入
4. 申請技術を試行する際における貴社の費用負担の考え方について伺います。	
(1) 試行工事における申請者の費用負担(官積額を超える部分)の上限額	具体的な金額または費用負担の考え方について記入
(2) 試行調査における申請者の費用負担(申請者で準備する調査機材及び人員調達など)の上限額	(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合は(1)同様に記入
(3) 申請技術に伴い不具合が発生した場合、手直し等に要する費用確保の考え方	(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合はその考え方を記入
5. その他	
(1) 本試行および特許・実用新案の内容について共同研究開発者からの同意。その他、係争に関わる事項について伺います。	共同研究開発者が申請技術を本調書の記載内容のとおり、試行を希望することについて同意済みである旨を記入 類似技術等の開発者などとの間に係争中または係争が予測される場合は内容を記入
(2) その他	その他、試行をするうえで特筆すべき事項について記入

・ 申請技術と申請技術を対比するため、同箇所にて施工する場合があります。同箇所での分割施工の可否やその制約条件について記入してください。

・ 試行申請型において、活用に係る費用は、従来技術の標準積算額を上限として申請者の負担となりますので、貴社で負担が可能な金額を記入してください。
 ・ 効果検証等の試行調査に係る費用は、申請者の負担となりますので、貴社で負担が可能な金額を記入してください。

・ 本活用および特許・実用新案の内容について、共同開発者からの同意を得ているか記入してください。
 ・ 類似技術等の開発者などとの間に係争中または、係争が予想される場合は内容を記入してください。

5. NETIS 登録抹消の申請

5.1 必要な申請書類、提出先、及び申請書類の記入方法

既登録技術の NETIS 登録の抹消を申請する書類は、以下のとおりです。

◆NETIS 登録抹消願（様式 I-10）

NETIS 登録の抹消を申請する場合に、提出して頂く書類です。

◆提出先及び部数

NETIS 登録抹消願は、当該技術を登録申請した申請・受付窓口へ提出してください。提出して頂く部数は1部で、電子データは不要です。

◆記入方法

以下の記入例を参考に記入して下さい。

様式 I-10

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 登録抹消願

令和 年 月 日

国土交通省
〇〇地方整備局長 / 北海道開発局長
〇〇 殿

会社名 新技術株式会社 法人印
 代表者氏名 評価 活用 公印
 所在地 東京都千代田区〇〇
 電話 03-〇〇〇〇-××××

「公共工事等における新技術活用システム」における NETIS（新技術情報提供システム）に
登録済みの下記技術について、登録を抹消されたく申請します。

記

 1. 技術名称：NETIS工法
 （商標名）： -
 2. NETIS 登録番号： *****
 3. 理由：
 4. 問い合わせ先：氏名 〇〇
 住所 東京都千代田区〇〇
 会社名 新技術株式会社
 所属 〇部〇課
 電話 03-〇〇〇〇-××××
 E-mail 〇〇〇〇@shingijyutsu.co.jp

- ・ この登録抹消願を提出する年月日を記入して下さい。ただし、各地方整備局によって異なる場合があるため、書類を提出する窓口にご確認下さい。
- ・ この登録抹消願を提出する地方整備局等の名称と局長名を記入して下さい。
- ・ 法人印、公印は、所定の箇所に必ず押印して下さい。
 ・ 会社名及び代表者名には、ふりがなを記入して下さい。
 * 法人印とは、企業が法人活動を行う際に使用されるものをいいます（例：角印社名を刻したもので認印として用いられる印）。
 * 公印とは、押印することにより、当該文書が真正であり、かつ効力を有することを承認するためのものをいいます。
- ・ 登録抹消しようとする新技術の工法名または製品名を正確に記入して下さい。
 ・ 技術名称、商標名及び NETIS 登録番号は、当該技術の既登録情報と同一かを確認して下さい。
- ・ 登録抹消を希望する理由を、明確かつ簡潔に記入して下さい。
- ・ 問い合わせ先は、質問などへの対応調整等の窓口となる担当者を記入して下さい。（複数の担当者が存在する場合はその代表者）

巻末資料－１ 申請・相談窓口一覧

建設技術の新技术に関する技術提供・提案・各相談等の受付は、当該技術開発者の所在地の地域にある相談窓口（申請者がヒアリングを受けるのに一番近い窓口）において行います。

（※注：複数の窓口での重複申請はできません）

申請・相談窓口一覧 (ホームページアドレス)	住所	TEL
北海道開発局		
事業振興部 技術管理課 技術活用係 https://www.hkd.mlit.go.jp/	〒060-8511 北海道札幌市北区北 8 条西 2 丁目 札幌第一合同庁舎	011-709-2311
東北地方整備局		
東北技術事務所 施工調査・技術活用課 http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/	〒985-0842 宮城県多賀城市桜木 3-6-1	022-365-8211
関東地方整備局		
関東技術事務所 施工調査・技術活用課 https://www.ktr.mlit.go.jp/kangi/	〒270-2218 千葉県松戸市五香西 6-12-1	047-389-5127
北陸地方整備局		
北陸技術事務所 施工調査・技術活用課 https://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/	〒950-1101 新潟県新潟市西区山田 2310 番地 5	025-231-1281
中部地方整備局		
中部技術事務所 技術活用・人材育成課 https://www.cbr.mlit.go.jp/chugi/	〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南 1-1-15	052-723-5701
近畿地方整備局		
近畿技術事務所 技術活用・人材育成課 技術開発相談室 https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/	〒573-0166 大阪府枚方市山田池北町 11-1	072-860-7202
中国地方整備局		
中国技術事務所 施工調査・技術活用課 https://www.cgr.mlit.go.jp/ctc/	〒736-0082 広島県広島市安芸区船越南 2-8-1	082-822-2448
四国地方整備局		
四国技術事務所 技術開発相談室 https://www.skr.mlit.go.jp/yongi/	〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼 1545	087-845-3135
九州地方整備局		
九州技術事務所 技術活用・人材育成課 https://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/	〒830-0002 福岡県久留米市高野 1-3-1	0942-32-8245
沖縄総合事務局		
沖縄総合事務局 開発建設部 技術管理課 http://www.ogb.go.jp/kaiken/	〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 2 丁目 1 番 1 号 那覇第 2 合同庁舎 2 号館	098-866-1904

前記申請・相談窓口の他、以下の相談窓口でも新技術活用についてのご相談に応じています。

相談窓口一覧 (ホームページアドレス)	住所	TEL
東北地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.thr.mlit.go.jp/	〒980-8602 宮城県仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台 合同庁舎 B 棟	022-225-2171 内線 3471
関東地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.ktr.mlit.go.jp/	〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心 2-1 さ いたま合同庁舎 2 号館	048-600-1347 内線 3471
北陸地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.hrr.mlit.go.jp/	〒950-8801 新潟県新潟市中央区美咲町 1-1-1 新 潟美咲合同庁舎 1 号館	025-280-8880 内線 3471
中部地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.cbr.mlit.go.jp/	〒460-8514 愛知県名古屋市中区三の丸 2-5-1	052-953-8180 内線 3481
近畿地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.kkr.mlit.go.jp/	〒540-8586 大阪府大阪市中央区大手前 1-5-44	06-6942-1141 内線 3481
中国地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.cgr.mlit.go.jp/	〒730-8530 広島県広島市中区上八丁目 6-30 広 島合同庁舎 2 号館	082-221-9231 内線 3471
四国地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.cgr.mlit.go.jp/	〒760-8554 香川県高松市サンポート 3-33 高松サ ンポート合同庁舎	087-851-8061 内線 3471
九州地方整備局		
企画部 施工企画課 https://www.qsr.mlit.go.jp/	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-10-7 福岡第二合同庁舎	092-471-6331 内線 3471
国土交通省 本省		
大臣官房 技術調査課 https://www.mlit.go.jp/	〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3	03-5253-8111 内線 22346
総合政策局 公共事業企画調整課 https://www.mlit.go.jp/	〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3	03-5253-8111 内線 24955

港湾技術の新技术に関する申請・相談窓口は以下の通りです。

申請・相談窓口一覧 (ホームページアドレス)	住所	TEL
北海道開発局		
事業振興部 技術管理課 技術活用係 https://www.hkd.mlit.go.jp/	〒060-8511 北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第一合同庁舎	011-709-2311
東北地方整備局		
仙台港湾空港技術調査事務所 技術開発課 http://www.pa.thr.mlit.go.jp/sendaignicho/	〒983-0842 宮城県仙台市宮城野区五輪1-3-20 仙台第二法務合同庁舎4階	022-791-2113
関東地方整備局		
横浜港湾空港技術調査事務所 調査課 https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/	〒221-0053 神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4	045-461-3895
北陸地方整備局		
新潟港湾空港技術調査事務所 技術開発課 https://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/	〒951-8011 新潟県新潟市中央区入船町4-3778	025-222-6115
中部地方整備局		
名古屋港湾空港技術調査事務所 技術開発課 http://www.meigi.pa.cbr.mlit.go.jp/	〒457-0833 愛知県名古屋市南区東又兵衛町1-57-3	052-612-9984
近畿地方整備局		
神戸港湾空港技術調査事務所 技術開発課 http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kobegicyo/	〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町7-30	078-331-0409
中国地方整備局		
広島港湾空港技術調査事務所 調査課 https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/gicyo/	〒734-0011 広島県広島市南区宇品海岸3-10-28	082-250-1902
四国地方整備局		
高松港湾空港技術調査事務所 技術開発課 https://www.pa.skr.mlit.go.jp/tkgityou/	〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30 高松港湾合同庁舎3階	087-811-5661
九州地方整備局		
下関港湾空港技術調査事務所 技術開発課 https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/gityou/	〒750-0025 山口県下関市竹崎町4丁目6-1	083-224-4130
沖縄総合事務局		
那覇港湾・空港整備事務所 技術調査室 http://www.dc.ogb.go.jp/nahakou/	〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-6-11	098-867-3710

前記申請・窓口の他、以下の相談窓口でも新技術活用についてのご相談に応じています。

相談窓口一覧 (ホームページアドレス)	住所	TEL
東北地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 http://www.pa.thr.mlit.go.jp/	〒980-8602 宮城県仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台 合同庁舎 B 棟	022-716-0004 内線 6461
関東地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/	〒231-8436 神奈川県横浜市中区北仲通 5-57 横 浜第二合同庁舎	045-211-7420 内線 5838
北陸地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 https://www.pa.hrr.mlit.go.jp/	〒950-8801 新潟県新潟市中央区美咲町 1-1-1 新 潟美咲合同庁舎 1 号館	025-280-8761 内線 6326
中部地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/	〒460-8517 愛知県名古屋市中区丸の内 2-1-36 NUP-フジサワ丸の内ビル	052-209-6329 内線 374
近畿地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/	〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通 20 神戸 地方合同庁舎	078-391-3103 内線 6475
中国地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/	〒730-0004 広島県広島市中区東白島町 14 番 15 号 NTT クレド白島ビル	082-511-3908 内線 212
四国地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 https://www.pa.skr.mlit.go.jp/	〒760-8554 香川県高松市サンポート 3-33 高松サ ンポート合同庁舎	087-851-8061 内線 6581
九州地方整備局		
港湾空港部 海洋環境・技術課 https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-10-7 福岡第二合同庁舎	092-418-3380 内線 448
国土交通省 本省		
大臣官房 公共事業調査室 https://www.mlit.go.jp/	〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3	03-5253-8111 内線 24296
港湾局 技術企画課 技術監理室 https://www.mlit.go.jp/	〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3	03-5253-8111 内線 46613

巻末資料－２ 関連様式集

申請に関わる様式は、下表に示すとおりである。

表 1 申請に関わる様式一覧表（申請者、施工者）

様式番号	様式名称	備考
様式 1	新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書	
様式 2	技術概要説明資料	
様式 I-7	試行申請書	
様式 I-8	試行希望調書	
様式 I-10	NETIS 登録抹消願	
様式 I-15	NETIS 掲載情報の更新・変更申請書	
様式 I-16	NETIS 掲載情報の改善技術申請書	
様式IV-2	新技術活用計画書・実施報告書	

新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書

令和 年 月 日

受付地整等
国土交通省
地方整備局長（北海道開発局長）
殿

ふりがな

会社名

法人印

ふりがな

代表者氏名

公印

住所地

電話

「公共工事等における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記のとおり申請します。
なお、本申請技術は、NETIS 登録技術とは同一技術でないことを誓約します。

記

ふりがな ※1

1. 技術名称：

ふりがな ※1

（商標名）：

ふりがな

2. 担当者窓口：氏名

会社名

所属

所在地

電話

E-mail アドレス

※1：技術名称は、その技術の内容及び特色が容易に理解できるものとして下さい。
商標がある場合に記入してください。

申請情報（新技術概要説明情報）

名称・分類

技術名称	
副題	
技術開発年	
記入年月日	
情報提供の範囲	一般
分類 1	
分類 2	
分類 3	
分類 4	
分類 5	
区分	
キーワード	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
開発目標	
開発体制	共同研究（産・官・学）
開発会社	
問合せ先（技術）	会社
	担当部署
	担当者
	郵便番号
	住所
	TEL
	FAX
	E-MAIL
	URL
問合せ先（営業）	会社
	担当部署
	担当者
	郵便番号
	住所
	TEL
	FAX
	E-MAIL
	URL
問合せ先（その他）	

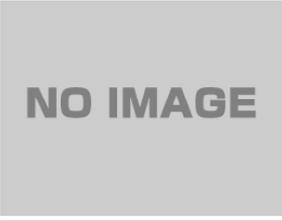
概要

<p>技術概要 (アブストラクト)</p>	
<p>概要</p>	<p>①何について何をする技術なのか？ <input type="text"/></p> <p>②従来は、どのような技術で対応していたのか？ <input type="text"/></p> <p>③公共工事のどこに適用できるのか？ <input type="text"/></p> <p>④その他 <input type="text"/></p>
<p>概要表タイトル</p>	
<p>概要表</p>	
<p>概要写真</p>	
<p>概要写真タイトル</p>	
<p>技術の アピールポイント (課題解決への有効性)</p>	
<p>新規性及び 期待される効果</p>	<p>①どこに新規性があるのか？（従来技術と比較して何を改善したのか？） <input type="text"/></p> <p>②期待される効果は？（新技術活用のメリットは？） <input type="text"/></p> <p>③その他 <input type="text"/></p>
<p>効果写真</p>	
<p>効果写真タイトル</p>	
<p>効果表</p>	
<p>効果表タイトル</p>	
<p>適用条件</p>	<p>①自然条件 <input type="text"/></p> <p>②現場条件 <input type="text"/></p> <p>③技術提供可能地域 <input type="text"/></p> <p>④関連法令等 <input type="text"/></p>

適用範囲	①適用可能な範囲
	②特に効果の高い適用範囲
	③適用できない範囲
適用される基準	①設計基準 <input type="text"/>
	②積算基準 <input type="text"/>
	③施工管理基準 <input type="text"/>
留意事項	①設計時
	②施工時
	③維持管理時
	④その他

従来技術との比較

活用の効果	従来技術名																												
	経済性	向上	同程度	低下																									
	変化値 0 %																												
	工程	短縮	同程度	増加																									
	変化値 0 %																												
	品質	向上	同程度	低下																									
	安全性	向上	同程度	低下																									
	施工性	向上	同程度	低下																									
	周辺環境への影響	向上	同程度	低下																									
		向上	同程度	低下																									
	向上	同程度	低下																										
新技術のコストタイプ																													
活用の効果の根拠																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">基準とする数量</th> <th colspan="2">単位</th> <th rowspan="2">向上の程度</th> </tr> <tr> <th>新技術</th> <th>従来技術</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経済性</td> <td>0 円</td> <td>0 円</td> <td>0 %</td> </tr> <tr> <td>工程</td> <td>日</td> <td>日</td> <td>0 %</td> </tr> </tbody> </table>				基準とする数量	単位		向上の程度	新技術	従来技術	経済性	0 円	0 円	0 %	工程	日	日	0 %												
基準とする数量	単位		向上の程度																										
	新技術	従来技術																											
経済性	0 円	0 円	0 %																										
工程	日	日	0 %																										
<p>変化値:マイナスの場合は、低下を示す。</p> <p>経済性：新技術の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>単位</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: right;">合計 0 円 / □あたり</td> </tr> </tbody> </table> <p>経済性：従来技術の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>単位</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: right;">合計 0 円 / □あたり</td> </tr> </tbody> </table> <p>工程：新技術 日 工程：従来技術 日</p>				項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	合計 0 円 / □あたり						項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	合計 0 円 / □あたり					
項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要																							
合計 0 円 / □あたり																													
項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要																							
合計 0 円 / □あたり																													
施工単価																													
費用内訳表 タイトル																													
費用内訳表																													
歩掛り表あり（なし）																													
施工方法																													

<p>施工方法写真</p>	
<p>施工方法写真 タイトル</p>	
<p>施工方法表</p>	
<p>施工方法表 タイトル</p>	
<p>今後の課題と その対応計画</p>	<p>①今後の課題</p> <hr/> <p>②対応計画</p> <hr/>

施工実績等

<p>施工実績</p>	<p>実績件数（国土交通省） <small>※旧建設省、旧運輸省含む</small></p> <p>国土交通省 0 件</p> <p>国土交通省における施工実績（20件まで）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事名</th> <th>事業種類</th> <th>整備局名</th> <th>事務所名</th> <th>施工開始</th> <th>施工終了</th> <th>CORINS登録No.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	工事名	事業種類	整備局名	事務所名	施工開始	施工終了	CORINS登録No.																																	
	工事名	事業種類	整備局名	事務所名	施工開始	施工終了	CORINS登録No.																																		
<p>実績件数（国土交通省以外） <small>※旧建設省、旧運輸省除く</small></p> <p>その他公共機関 0 件 民間 0 件</p> <p>国土交通省以外における施工実績（20件まで）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事名</th> <th>発注者（種別）</th> <th>発注者（事務所）</th> <th>施工開始</th> <th>施工終了</th> <th>CORINS登録No.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	工事名	発注者（種別）	発注者（事務所）	施工開始	施工終了	CORINS登録No.																																			
工事名	発注者（種別）	発注者（事務所）	施工開始	施工終了	CORINS登録No.																																				
<p>特許・実用新案</p>	<p>特許情報1</p> <table border="1"> <tr><td>特許番号</td><td> </td></tr> <tr><td>特許</td><td> </td></tr> <tr><td>特許-通常実施権</td><td> </td></tr> <tr><td>特許-専用実施権</td><td> </td></tr> <tr><td>特許権者</td><td> </td></tr> <tr><td>実施権者</td><td> </td></tr> <tr><td>特許料等</td><td> </td></tr> <tr><td>実施形態</td><td> </td></tr> <tr><td>問合せ先</td><td> </td></tr> </table> <p>特許情報2</p> <table border="1"> <tr><td>特許番号</td><td> </td></tr> <tr><td>特許</td><td> </td></tr> <tr><td>特許-通常実施権</td><td> </td></tr> <tr><td>特許-専用実施権</td><td> </td></tr> <tr><td>特許権者</td><td> </td></tr> <tr><td>実施権者</td><td> </td></tr> <tr><td>特許料等</td><td> </td></tr> <tr><td>実施形態</td><td> </td></tr> <tr><td>問合せ先</td><td> </td></tr> </table> <p>特許情報3</p> <table border="1"> <tr><td>特許番号</td><td> </td></tr> <tr><td>特許</td><td> </td></tr> </table>	特許番号		特許		特許-通常実施権		特許-専用実施権		特許権者		実施権者		特許料等		実施形態		問合せ先		特許番号		特許		特許-通常実施権		特許-専用実施権		特許権者		実施権者		特許料等		実施形態		問合せ先		特許番号		特許	
特許番号																																									
特許																																									
特許-通常実施権																																									
特許-専用実施権																																									
特許権者																																									
実施権者																																									
特許料等																																									
実施形態																																									
問合せ先																																									
特許番号																																									
特許																																									
特許-通常実施権																																									
特許-専用実施権																																									
特許権者																																									
実施権者																																									
特許料等																																									
実施形態																																									
問合せ先																																									
特許番号																																									
特許																																									

特許-通常実施権	
特許-専用実施権	
特許権者	
実施権者	
特許料等	
実施形態	
問合せ先	

特許情報4

特許番号	
特許	
特許-通常実施権	
特許-専用実施権	
特許権者	
実施権者	
特許料等	
実施形態	
問合せ先	

特許情報5

特許番号	
特許	
特許-通常実施権	
特許-専用実施権	
特許権者	
実施権者	
特許料等	
実施形態	
問合せ先	

実用新案	
有りの場合 ：特許番号	
実施新案- 通常実施権	
実施新案- 専用実施権	
備考	<input type="text"/>

第三者評価・
表彰等

建設技術審査証明

建設技術番号	
評価年月日	
証明機関	
URL	

建設技術評価

建設技術評価番号	
評価年月日	
URL	

その他の制度等による証明1

制度の名称	
番号	
証明年月日	
証明機関名称	
証明範囲	
URL	

その他の制度等による証明2

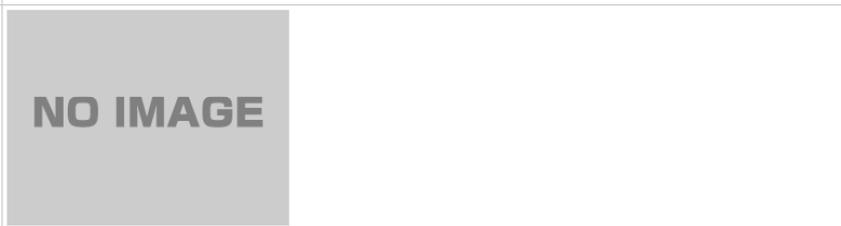
制度の名称	
番号	
証明年月日	
証明機関名称	
証明範囲	
URL	

証明項目	試験・調査内容	結果
------	---------	----

実験等実施状況

--

実験等実施状況
写真



実験等実施状況
写真タイトル

--

実験等実施状況表

--

実験等実施状況表
タイトル

--

添付資料	<div data-bbox="472 232 1329 271" style="border: 1px solid black; height: 17px;"></div> <p data-bbox="485 286 608 309">【その他資料①】</p> <p data-bbox="485 331 608 353">【その他資料②】</p> <p data-bbox="485 376 608 398">【その他資料③】</p>												
参考文献	<div data-bbox="472 423 1329 461" style="border: 1px solid black; height: 17px;"></div>												
その他	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="472 479 687 712" style="width: 30%; vertical-align: top;">その他写真1</td> <td data-bbox="687 479 1329 712" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div data-bbox="687 479 970 712" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 104px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 712 687 768" style="vertical-align: top;">その他写真1 タイトル</td> <td data-bbox="687 712 1329 768"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 768 687 987" style="vertical-align: top;">その他写真2</td> <td data-bbox="687 768 1329 987" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div data-bbox="687 768 970 987" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 987 687 1043" style="vertical-align: top;">その他写真2 タイトル</td> <td data-bbox="687 987 1329 1043"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1043 687 1263" style="vertical-align: top;">その他写真3</td> <td data-bbox="687 1043 1329 1263" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div data-bbox="687 1043 970 1263" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1263 687 1321" style="vertical-align: top;">その他写真3 タイトル</td> <td data-bbox="687 1263 1329 1321"></td> </tr> </table>	その他写真1	<div data-bbox="687 479 970 712" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 104px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>	その他写真1 タイトル		その他写真2	<div data-bbox="687 768 970 987" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>	その他写真2 タイトル		その他写真3	<div data-bbox="687 1043 970 1263" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>	その他写真3 タイトル	
その他写真1	<div data-bbox="687 479 970 712" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 104px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>												
その他写真1 タイトル													
その他写真2	<div data-bbox="687 768 970 987" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>												
その他写真2 タイトル													
その他写真3	<div data-bbox="687 1043 970 1263" style="background-color: #cccccc; width: 177px; height: 98px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> NO IMAGE </div>												
その他写真3 タイトル													

詳細説明資料

評価項目			申請者記入欄								
大	中	小	①現行基準 値等	②現行基準と の比較(結 果)	③申請技術 について実 証により確 認した数値 等	④従来技術 との比較< 結果>	⑤申請技術 の数値採取 条件	⑥実証方法・ 機関	⑦添付資料 名・番号(根 拠データ等)	⑧基準値等 の引用もと	備考
品質	耐久性(物 性)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	耐久性(形 状)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	耐久性(能 力)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	材料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	施工	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完成物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
安全性	構造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	施工段階	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
施工性	現場条件	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	適用範囲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	自然条件	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	施工管理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	難易度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
環境	社会環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	作業員環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

比較表

	新技術	従来技術
技術名称		
工法概要	-	
概略図	NO IMAGE	NO IMAGE
経済性	0円/0 (同程度)	0円/0
評価		-
工程・工期	0日/0 (同程度)	0日/0
評価		-
品質		
評価		-
現場条件		
設計条件		
安全性		
評価		-
施工性		
評価		-
周辺環境への影響		
評価		-
自由項目		
評価		-
自由項目		
評価		-
NETIS番号		-
備考		
総合評価		-

申請者提出資料（添付資料）

添付資料1	
添付資料2	
添付資料3	
添付資料4	
添付資料5	
添付資料6	
添付資料7	
添付資料8	
添付資料9	
添付資料10	
添付資料11	
添付資料12	
添付資料13	
添付資料14	
添付資料15	
添付資料16	
添付資料17	
添付資料18	
添付資料19	
添付資料20	
添付資料21	
添付資料22	
添付資料23	
添付資料24	
添付資料25	
添付資料26	
添付資料27	
添付資料28	
添付資料29	
添付資料30	

震災NETIS

ジャンル	
震災対応上の特徴	
関連URL	

災害対応関連工事・業務における活用実績

活用工事・業務件数	
実績1	工期 ~ 災害名 選択無し 工事・業務名 発注者
実績2	工期 ~ 災害名 選択無し 工事・業務名 発注者
実績3	工期 ~ 災害名 選択無し 工事・業務名 発注者
実績4	工期 ~ 災害名 選択無し 工事・業務名 発注者
実績5	工期 ~ 災害名 選択無し 工事・業務名 発注者

維持管理NETIS

ジャンル	
点検等上の特徴	
点検等対象の材質	
点検等の項目	
新技術の活用により期待される効果	
関連URL	
公募	

点検関連工事・業務等における活用実績

活用工事・業務件数	
実績1	<p>工期 ~</p> <p>点検等名 工事・業務等名 発注者</p> 
実績2	<p>工期 ~</p> <p>点検等名 工事・業務等名 発注者</p> 
実績3	<p>工期 ~</p> <p>点検等名 工事・業務等名 発注者</p> 

公共工事等における新技術活用システム 試行申請書

令和 年 月 日

国土交通省
 _____ 地方整備局長 / 北海道開発局長
 殿

会 社 名

法人印

代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

_____ 地方整備局において NETIS 登録済みの新技術について、以下の内容に同意の上、下記のとおり申請します。

【NETIS における位置付け】

新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果及び申請情報に基づき当該技術の活用の実施が保証されるといった性格のものではありません。

【活用における費用負担について】

活用に当たり標準積算額を超える費用が生じた場合は、試行調査にかかる費用として負担いたします。

【試行調査・活用効果調査における費用負担について】

試行調査および活用効果調査については、調査にかかる費用を負担いたします。

記

- ①新技術名称
- ②NETIS 登録番号
- ③申請会社等
 - 郵便番号
 - 住所
 - 会社名
 - 部署
 - 実務担当者
 - 電話番号
 - E-Mail アドレス

公共工事等における新技術活用システム 試行希望調書

技術名称	新技術名称を記入					
会社名	会社名を記入					
記入者氏名	(通常、実務担当者とする)	記入年月日	令和	年	月	日

1. 試行を希望する工事の内容、条件および範囲について伺います。

(1) 主たる評価項目	様式2などに記載して頂いている技術の有用性のうち、試行において特に評価項目としたい内容について記入				
(2) 直轄事業への適用分野 <small>(選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]</small>	<input type="checkbox"/> 河川 <input type="checkbox"/> ダム <input type="checkbox"/> 砂防 <input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 港湾 <input type="checkbox"/> 建築 <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> その他 上記で“その他”にチェックされた場合は、該当する「分野」を記入				
(3) 工種・工事の内容	様式2に記載された“分類1”で工事内容が判断出来る場合は“分類1”を記入 判断が困難な(希望を反映出来ない)場合は、具体的な“工事内容”を記入				
(4) 施工現場の条件	申請技術の適用範囲、有効性、評価項目などを考慮し、その条件を記入 ただし、条件の設定に際しては、様式-2の記載内容(適用条件等)と整合を図ること				
(5) 試行規模の範囲	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">上限値</td> <td>貴社の費用負担、技術の施工能力、国交省発注における常識的な施工規模、などから勘案した施工数量の上限値</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">下限値</td> <td>試行調査において評価を行うのに妥当なデータを取得できる規模、コスト等を考慮した規模などから勘案した施工数量の下限値</td> </tr> </table>	上限値	貴社の費用負担、技術の施工能力、国交省発注における常識的な施工規模、などから勘案した施工数量の上限値	下限値	試行調査において評価を行うのに妥当なデータを取得できる規模、コスト等を考慮した規模などから勘案した施工数量の下限値
上限値	貴社の費用負担、技術の施工能力、国交省発注における常識的な施工規模、などから勘案した施工数量の上限値				
下限値	試行調査において評価を行うのに妥当なデータを取得できる規模、コスト等を考慮した規模などから勘案した施工数量の下限値				
(6) 対応可能地域(国交省管轄) <small>(選択はいくつでも) [右記チェックボックスにより選択]</small>	<input type="checkbox"/> 北海道開発局 <input type="checkbox"/> 東北地整 <input type="checkbox"/> 関東地整 <input type="checkbox"/> 北陸地整 <input type="checkbox"/> 中部地整 <input type="checkbox"/> 近畿地整 <input type="checkbox"/> 中国地整 <input type="checkbox"/> 四国地整 <input type="checkbox"/> 九州地整 <input type="checkbox"/> 沖縄総合事務局 その他(上記に該当しない範囲設定や、選択地域の内に対応出来ない場所)				
(7) その他の条件	上記以外で試行に際しての特筆すべき条件を記入				

2. 上記1. の工事において予想される不具合とその対応について伺います。(予想される不具合を全て記載)

(1) 工事中において予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間中(施工中・調査中・試験中)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合により申請技術での施工が困難となった場合、申請技術以外での代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入
(2) 工事完了後に予想される不具合とその対応	
① 予想される不具合	申請技術の適用期間後(施工後・調査後・試験後)において発生が考えられる不具合を記入
② 代替手段について	①の不具合に対処するために、申請技術以外で考えられる代替手段を記入
③ やり直しに要する時間	②の代替手段を実施するにあたっての、おおよその時間、日数を記入
④ 社会的影響など	上記の不具合により考えられる影響などを記入

3. 上記1(5)試行規模の範囲において、申請技術と従来技術による分割施工の可否について伺います。	
(1) 試行しようとする申請技術と従来技術等とは分割しての施工が可能か [下記ラジオボタンにより選択]	<input checked="" type="radio"/> 不可・困難・・・下記(2)にその理由を記入 <input type="radio"/> 可能・・・下記(2)に分割施工時の条件を記入
(2) 分割して施工する場合の条件等(または、分割施工出来ない理由)	分割することによる施工条件や追加して施工しなければならない作業などについて記入
4. 申請技術を試行する際における貴社の費用負担の考え方について伺います。	
(1) 試行工事における申請者の費用負担(官積額を超える部分)の上限額	具体的な金額または費用負担の考え方について記入
(2) 試行調査における申請者の費用負担(申請者で準備する調査機材及び人員調達など)の上限額	(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合は(1)同様に記入
(3) 申請技術に伴い不具合が発生した場合、手直し等に要する費用確保の考え方	(1)に含まれている場合はその旨を、含まれない場合はその考え方を記入
5. その他	
(1) 本試行および特許・実用新案の内容について共同研究開発者からの同意。その他、係争に関わる事項について伺います。	共同研究開発者が申請技術を本調書の記載内容のとおり、試行を希望することについて同意済みである旨を記入 類似技術等の開発者などとの間に係争中または係争が予測される場合は内容を記入
(2) その他	その他、試行をするうえで特筆すべき事項について記入

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 登録抹消願

令和 年 月 日

国土交通省

____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

会 社 名

法人印

代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

「公共工事等における新技術活用システム」における NETIS (新技術情報提供システム) に登録済みの下記技術について、登録を抹消されたく申請します。

記

1. 技 術 名 称 :
(商 標 名) :

2. NETIS 登録番号 :

3. 理 由 :

4. 問 合 せ 先 : 氏 名
住 所
会 社 名
所 属
電 話
E-mail アドレス

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 掲載情報の変更・更新申請書

令和 年 月 日

国土交通省

____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

ふ り が な
会 社 名

法人印

ふ り が な
代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

NETIS 掲載情報の変更・更新について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称 :

ふ り が な
(商 標 名) :

NETIS 登録番号(既登録) :

2. 変更・更新内容 :

3. 担 当 窓 口 : 氏 名

会社名

所 属

所在地

電 話

E-Mail アドレス

4. 添付資料 :

公共工事等における新技術活用システム
NETIS 掲載情報の改善技術申請書

令和 年 月 日

国土交通省

____地方整備局長 / 北海道開発局長
殿

ふ り が な
会 社 名

法人印

ふ り が な
代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

NETIS 掲載情報の改善技術について、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称 :
(商標名) :

NETIS 登録番号(既登録) :

2. 改善内容 :

3. 担 当 窓 口 : 氏 名

会社名

所 属

所在地

電 話

E-Mail アドレス

4. 添付資料 :

新技術活用計画書・実施報告書 システム入力画面（イメージ）

様式IV-2

評価情報（活用効果調査表等）

登録番号	
新技術名称	
比較する従来技術	
組織機関名	
部署・事務所名	
工事名	
活用等の型	

新技術活用計画書・実施報告書

作成日			
受注者名			
契約額(円)			
工事期間	～		
新技術施工期間	～		
施工場所			
施工概要	内容		
	対象数量		
	新技術使用箇所		
	現場施工条件	【現場条件】	
		【周辺状況（病院、学校、鉄塔の有無等）】	
【自然環境（騒音、振動、水質等）】			
施工（活用）概要資料			
障害	【施工上で重大な障害や問題が生じたか。】		
作業環境			
活用理由	経済性		
	工程		
	品質・出来形		
	安全性		
	施工性		
	環境		
	その他（）		
	その他（）		